

103. 北米の小麥地帯 (Baker)
一點一萬英町

カナダでは小麥産地の北限 (夏の温度平均華氏57度の線) までには尙多くの餘地がある

ヨーロッパは、その産額も多いが又その消費も大なる。フランスはヨーロッパ第二の産出を有するにかゝらず小麥を輸入し、ドイツはその消費の四分の一を、イギリスは十分の五を他に仰いでゐる。

世界穀物として小麥の補助的地位にあるものは北部温帯地方の大麥、燕麥、裸麥、南部温帯及び亞熱帯地方の玉蜀黍、小麥である。これらについては前章に述べた。

米は國際商品と稱すべきものではないが我國と直接な關係があり、世界穀物としてもモンズーン地方に於ける人口即ち全世界の三分の一以上の人口に對して主要食

物となつてゐる。米の産地はモンズーン地方である。従つて舊世界では日本、支那、佛領印度支那、シヤム、ビルマ、ジャヴァで、新大陸ではカリフォルニア、テキサス又最近ではブラジル、アルヘンチナに耕作されるやうになつた。日本と支那とは全世界收穫の半を出すけれども、その人口の稠密なるため消費額多く、輸出することが出来ず他より仰いでゐる。そして人口稀薄なビルマ、シヤム、印度支那が米の市場となつて居る。即ちラングーン米(ビルマ)、シヤム米、サイゴン米(佛領印度支那南部)、トンキン米(佛領印度支那北部)の名のある所以である。ヨーロッパ諸國にてはドイツ、オランダが、大きい消費者である。

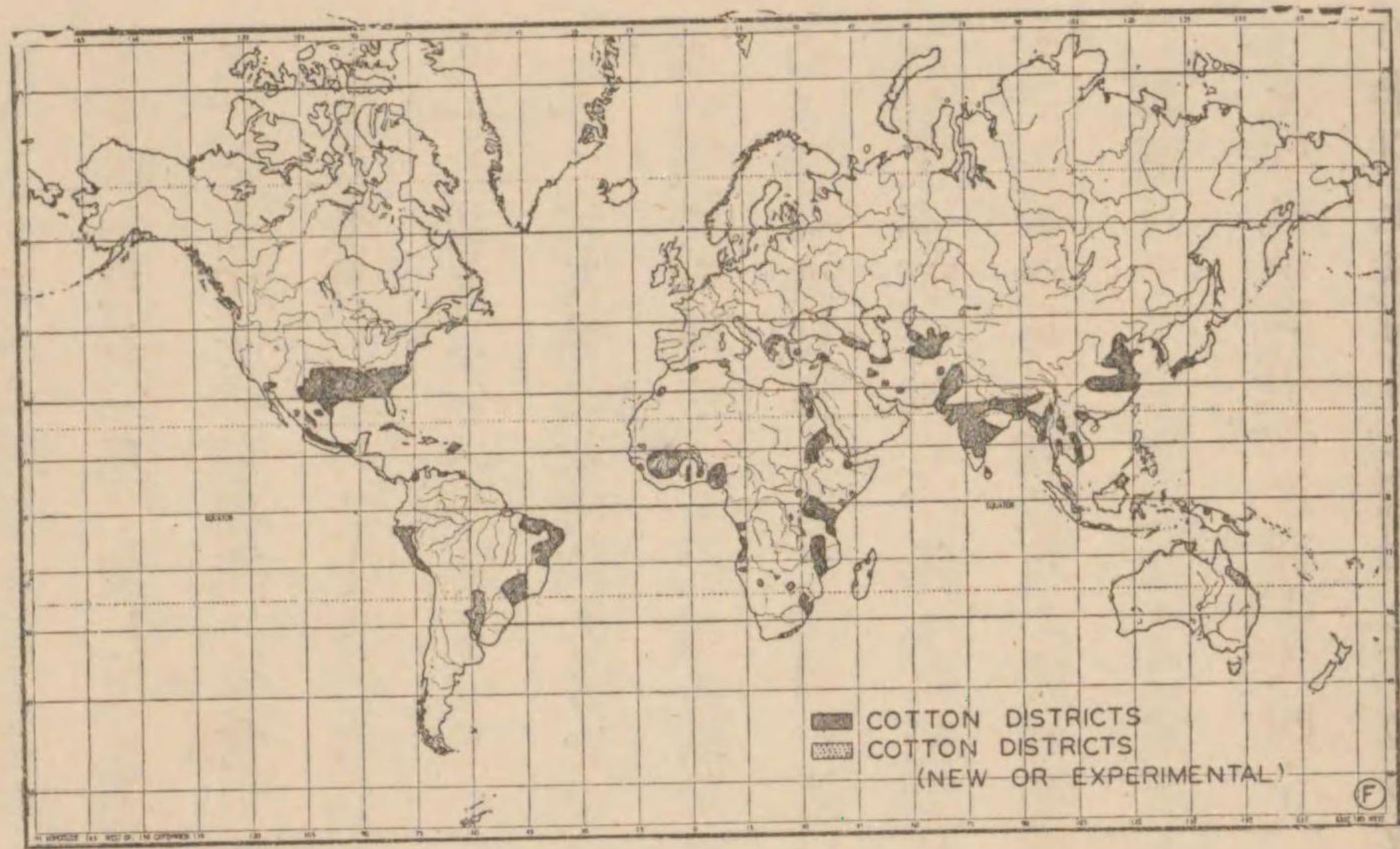
香港はその需要國と供給國との中間にある地理的位置の故に、世界に於ける米の中繼地、大集散地として米の貿易上重大なる地位を占めてゐる。前記の米過剰地域の米はこゝに集められここからその輸出商の手によつて支那、日本、フィリッピン、南米などの消費國へ送られる。香港には常に多種多量の米が集中するので、直接産地で買ふより香港で求める方が却つて簡便且つ割安である場合が多い。國際市場よりみて米の産地が次第に各地に、殊に新大陸に擴大してゆくの、それらの安い價格が日本の農業に與へる影響が多きいことであらう。

棉花

英國は米國に次いで世界最大の棉花消費國である。即ち一九二六年より二七年に於ける同國の棉花消費は六十八萬三千佛噸である(全世界消費量の二・五%)而してその中自國の領土及び勢力範圍としての印度及び埃及よりの棉花は印度棉一萬四千八百佛噸(英國全消費量の僅かに二・二%)、埃及棉は十二萬五千五百佛噸(一八・三%)で、その大部分(約七〇%)たる四十七萬七千七百佛噸はこれを米國に仰いでゐるのである。

けだし米棉殊にその「海島棉」(Sea Island Cotton)種は世界最上の優良棉であつて、纖維の長さ一吋四分の三に及び、細く強靱で絹絲の如き光澤を帯び、印度棉の如く葉塵などなく、縱絲は米棉に限ると言はれてゐる。有名な英國のレスターのレースの如きも米棉を原料としてゐる。これ細絲紡績を主とする英國にあつては自國の劣等な印度棉より優良な米棉を求むる所以である。

米棉は世界棉花産額の六四・八%たる二百八十八萬二千噸(一九二六―七年)を占め、而もその半以上は海外に輸出してゐる故、世界の棉花市場は米國に支配されてゐるのである。殊に英



104. 棉花の生産地 (Baker)

國は上述の關係から米國棉花の支配に立つてゐるのである。而して世界のゴム市場を支配する英國がその最大の需要者たる米國に對してゴムの生産制限を行つたことに對し、米國は廢用ゴムの再生によりこれに對抗すると共に、他方に於てその報復として米棉の輸出制限を行つて英國を苦しめんとの議が行はれた位である。

米國は英國の「ゴムの支配」から免れんとして中米にゴム栽培の開拓をなしつゝ、あると同時に、英國は米國の「棉の支配」から獨立せんとして、英領スーダンに、東アフリカに、濠洲に棉花耕作の開拓を行つてゐる。

このことは一方、英國にとつては埃及の獨立、印度の自主運動によつてこれらの國々が従前の如く英國に好都合な植民地でなくなつたために、英國をして「第二の埃及」

及、「第二の印度」を求めしむるに至つたのである。

英國はその領土を棉花生産地になさんとする努力はまづ英領スーダンに行はれた。

埃及は古來棉花を以て有名で、米棉の「海島棉」種にさして劣らざる優良棉を産してゐる。即ちその絲は長く強く美しく光澤を有し細絲の原料として英國の最も歡迎する品種に屬してゐる。而してその收穫率は非常によく一英町につき平均五百封度、土地によつては八百封度を産するは世界にその比を有しないところである。米棉は僅にその三分の一、印度に至つては七分の一に過ぎないのである。

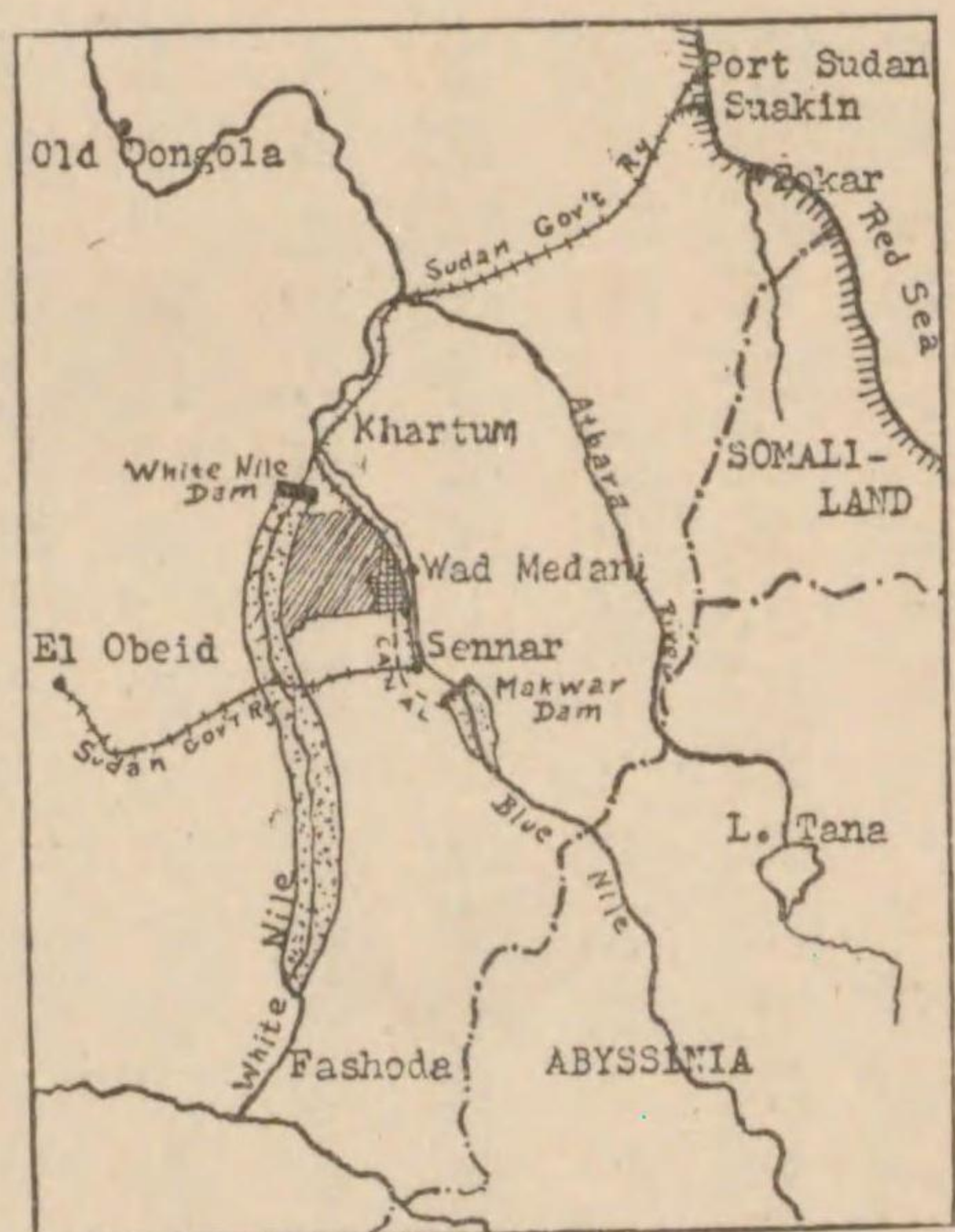
かく埃及棉の收穫率のよいのはナイル河の恩澤である。即ち毎年七月から十月にかけての氾濫は地力を養ひ、そのため埃及は多く金肥を費すことなくして以上の如き高率收穫を維持してゐる。耕地は主として河口に近いデルタで全耕地の七〇%を占めてゐる。然し近年ナイル河の改修工事が完成し、洪水は絶対に見舞はないことになつたから今後は金肥を施す外はなくなつた。そのために埃及棉の産額品質ともに最早頂上を過ぎたのではないかと見られてゐる。

英國はナイル上流たる自國領土のスーダンの處女地を棉花栽培地に選んだのはかうした事情からでもあつた。

棉花の栽培に何よりも必要なのは灌溉水である。よつて一九二五年ハルツーム(Kartoum)南

方の約二七〇千の地のマクワール(Makwar)に於て青ナイルにセンナール堰門を建設し、ゲジラ(Gezira)灌溉地を開拓することになつた。

註 ゲジラ灌溉地は一八九九年サー・ウィリアム・ガーステン(Sir William Garstin)の創案にかゝり、ま



105. ナイルの新開墾地とマクワール Dam (Renner)
斜線は間もなく開墾さるべき
三百萬英町の土地

づ三十萬英町の土地を拓き、漸次百萬英町に及ぼうといふのである。このダムによつて六億三千六百萬平方米の水が貯へられ、その貯水は五十八哩の上流のシンガ(Singa)に及ぶ。ダムは長さ二哩高さ最高八十呎で、高さ二十七呎巾七呎の水門八個、運河調節の水門十四個をつくることになつた。この費用は英國政府保證の下に公債募集をなしつゝある。豫算は千三百五十萬磅である。

その結果一九二七年十萬五千六百八十九英町の地が棉花耕作地として新たに開かれ、従前の耕作地と合して二十一萬六千五百四十四英町となり、その産額一九二六年より七年に互つて二萬八千三百七十佛噸を擧げてゐる。

スーダンの棉花耕作地開拓について最も重大なのは「水」である。即ち青ナイルの水利を専有

することである。而して青ナイルはその源をアビシニヤのタナ (Tana or Tsana) 湖に發してゐる。

タナ湖とは「深き湖」の意味を有し海拔千八百米の群山の中にある火山湖でその面積三千平方糎毎年十月中旬クレム (Kerent) と稱する降雨期になるとタナ湖は一萬六千五百五十平方糎の貯水湖となる。湖に注ぐ水量の中蒸發するものを除き利用される水利は三十四億六千萬立方糎であると言はれる。かくタナ湖は莫大な水量を有してゐるのであるから青ナイルの排水量を統制する上からはタナ湖はその生命ともいふべき自然的大貯水池にあたるのである。それ故慧眼なる英國政府はスーダンの灌漑計畫を達成するため一九〇二年以來色々な科學的派遣隊をアビシニヤに送り調査を行つてゐた。その調査の目的といふのはタナ湖及び青ナイルであつた。その結果タナ湖に於て五月始めから十二月終りまでに貯水を獲、一月から四月までの間にこの貯水を分配することが判つた。この計算によれば一秒時毎々三五〇立方糎の水量を流出せしめ、後この水量をもつてすればスーダン地方に四萬二千平方糎約百五萬英町の棉花耕作地に灌漑し得るのである。

英國がスーダン開發のため如何にタナ湖の水利權を欲してゐたかはこの湖の重要性を知ると

きは直ちに諒解し得るところである。而して他方イタリアは其領土エルトリヤ國境より伊領ソマリランドの國境に至る鐵道の敷設權をアビシニヤより獲んとしてゐるので、イタリアが英國の主張を支持する代償として自國の希望を支持せんことを英國に提議しその協定成り、一九二五年十二月これをアビシニヤに通知した。英國がいかにスーダンを潤ほす「水」について細心の配慮をなしてゐるかは、その協定に次の保留をなしてゐることによつても窺ひ知ることが出来る。

イギリスは西部アビシニヤ國および上記鐵道沿線地帯全部にわたり、イタリアの經濟上の獨占的勢力を承認し、さらに進んで右地帯におけるイタリア政府の一切の要求を支持すべきも、右イタリア政府がイギリスのエジプトおよびスーダンの優越なる水利權を承認し、關係河川の上流において、その本流に通ずる水量を著しく變化せしむべき何等の作業をなさざるべきことを條件とす。

然しタナ湖の水が英領スーダンの農耕地のためにのみ利用せらるる時はアビシニヤに於ける豊饒な青ナイルの流域及びタナ湖沿岸の地方は日ならずしてその農業が衰滅することが明かである。それ故アビシニヤはタナ湖の水利權の讓與を求むるイギリスに反對し、一九二六年八月國際聯盟の一員として(アビシニヤは一九二三年九月聯盟に加入した)聯盟に次の如きアッピールをなした。

我政府は、最近イギリス及イタリア兩政府から符節を一にするノートを受け受した。即ち此のノートは、イギリス政府にとつては、我タナ湖の水の保存を企劃するためにコンセッションを獲得する見地を以て、又イタリア政府にとつては、我帝國を貫通する鐵道敷設の見地を以て、英伊兩國政府が相互諒解の協定をなせるものである。此の合同通告を送附せる兩國の行動に依つて、又、此の事に關して何等の豫告も相談も我政府となさずして到着したる此の協定の結論に依つて、我等は深き憤激をかもされたのである。

第一に、聯盟加入の權利を以て我等は凡ての國民は聯盟に於て平等の基礎の上に置かれ、而して又凡ての國家の獨立は、共通に、尊重されねばならぬといふことを主張するものである、如何となれば、神の意思と合致して、人間の間に平和を維持し而して之れを維持せざる可からざるは聯盟の目的であるが故である。……アビシニヤの國民は、正義をなさんことを熱求し進歩と改善の道程に沿うて、彼等(他國を浸侵する國々)を誘善せんと欲してゐる……此の理由に依つて、我等は、政治目的を初心に押し包み、我國內及國境に、經濟的理由から、外國人等が自由行動をとらんと欲しつゝあることを全國民と共に確信するものである……我等は、聯盟加入の諸國が、進んで、受諾せざる此の強壓手段が、我等の上に行使さるべきことの正しきか否かを聯盟加入諸國から聞かんと欲するものである。

このアビシニヤの訴を援助したのはフランスである。この訴は首府アヂス・アベバ駐在のフランス領事の手によつて起草された。蓋しフランスはアビシニヤに鐵道を始めとし多くの利權を有する許りでなく、一九〇六年十二月の英佛伊の三國協定をなし「アビシニヤの政治及び領土

の保全を約し、經濟的利權の繩張りを侵犯せざることを、アビシニヤの内政に三國は干渉せざることを、もし干渉の必要起らば相互に豫め相談を遂ぐることを」を約してゐる。然るにイギリスとイタリアがフランスを度外してこの協定をなしたのでフランスも黙してゐなかつたのである。聯盟はこれを總會の決議に問はなかつたがこのアビシニヤの正しき訴が國際的同情を喚起することが大であり、この協定は事實上行はれなかつた。而も尙時の英國の外相チェンバレンは下院で「スーダンの水の問題は緊急である」と叫んだのであつた。

棉花耕作地開拓と灌漑との問題はたゞにスーダンに限らずどこにでもついて廻てゐる。濠洲に於ても棉花耕作地開拓について政府事業として大規模に灌漑が行はれてゐる。而も濠洲に於ては水量充分な河流を利用することを得ず、従つてバーリンデック・ダム(Burinjuck Dam)の如き澗谷に水を集め、又は井戸により地下の流れをもつて水を得てゐる。ニューサウス・ウェールズの如きは五百五十二の井戸、クィーンズランドには八百の井戸あり、中には七千尺の深井もある。その結果一九一三年には僅に三佛噸の棉花を出すに止まつてゐたのが一九二四年には三千百三十佛噸の産出をなしてゐることは注目すべきことである。

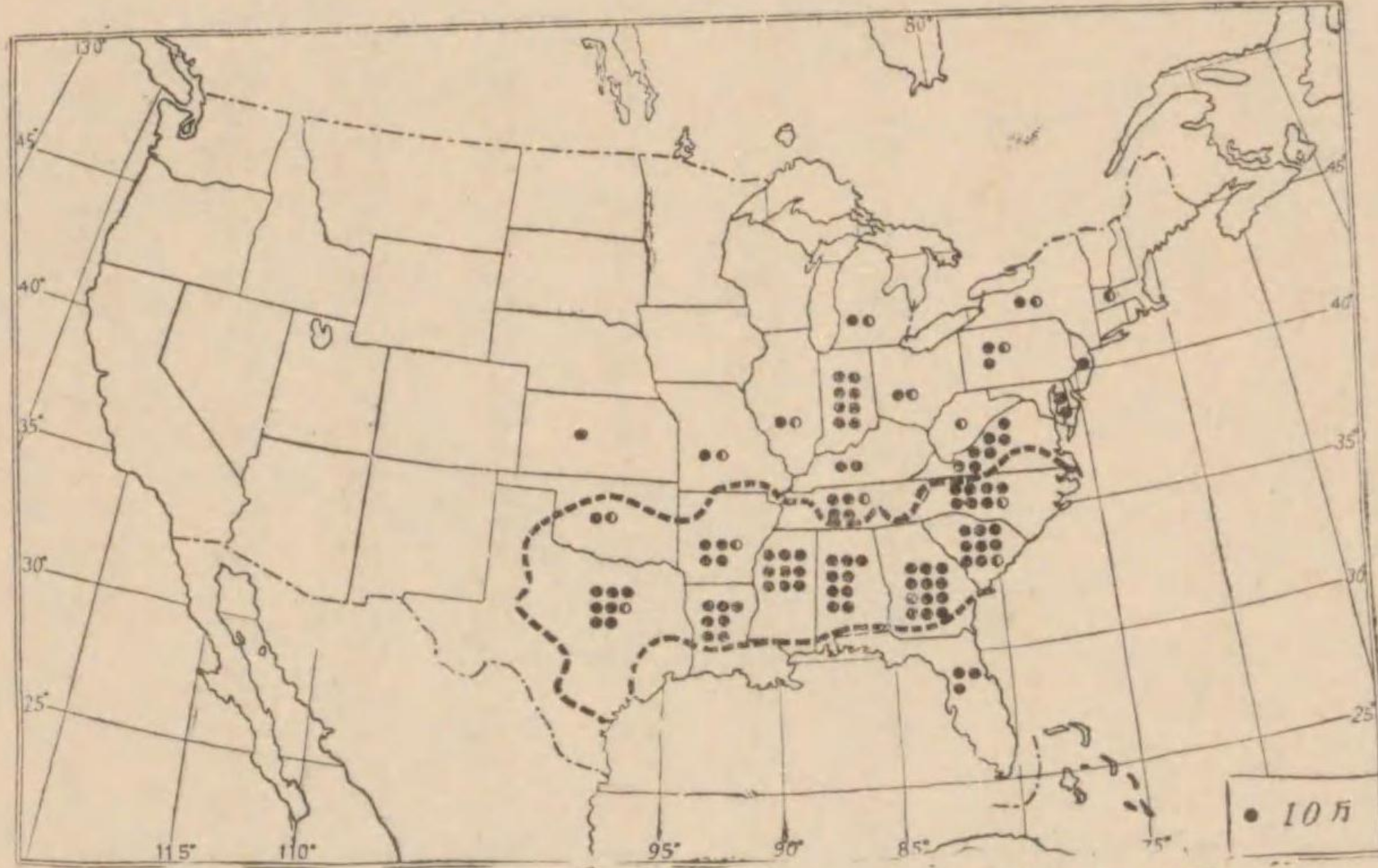
英領東アフリカに於ては棉花耕作地は限られてゐるが、而もケニヤ及びウガンダに於ては早

くより英人が棉花に注目し、近年は世界市場に進出し得るに至りこの地方の第一の輸出品となりウガンダのみでも一九一一年に五十三萬三千英町の棉花の耕地を有して居り、その可耕地は一千萬英町と言はれてゐる。戦後英國は退役軍人に植民獎勵し一六〇英町より三百英町の土地を無償で與へ更に五千英町を限度として土地を貸與し、一英町四志乃至五志無利息十年賦でこれを譲り渡す選擇權を與へてこの地の開發に努力してゐる。

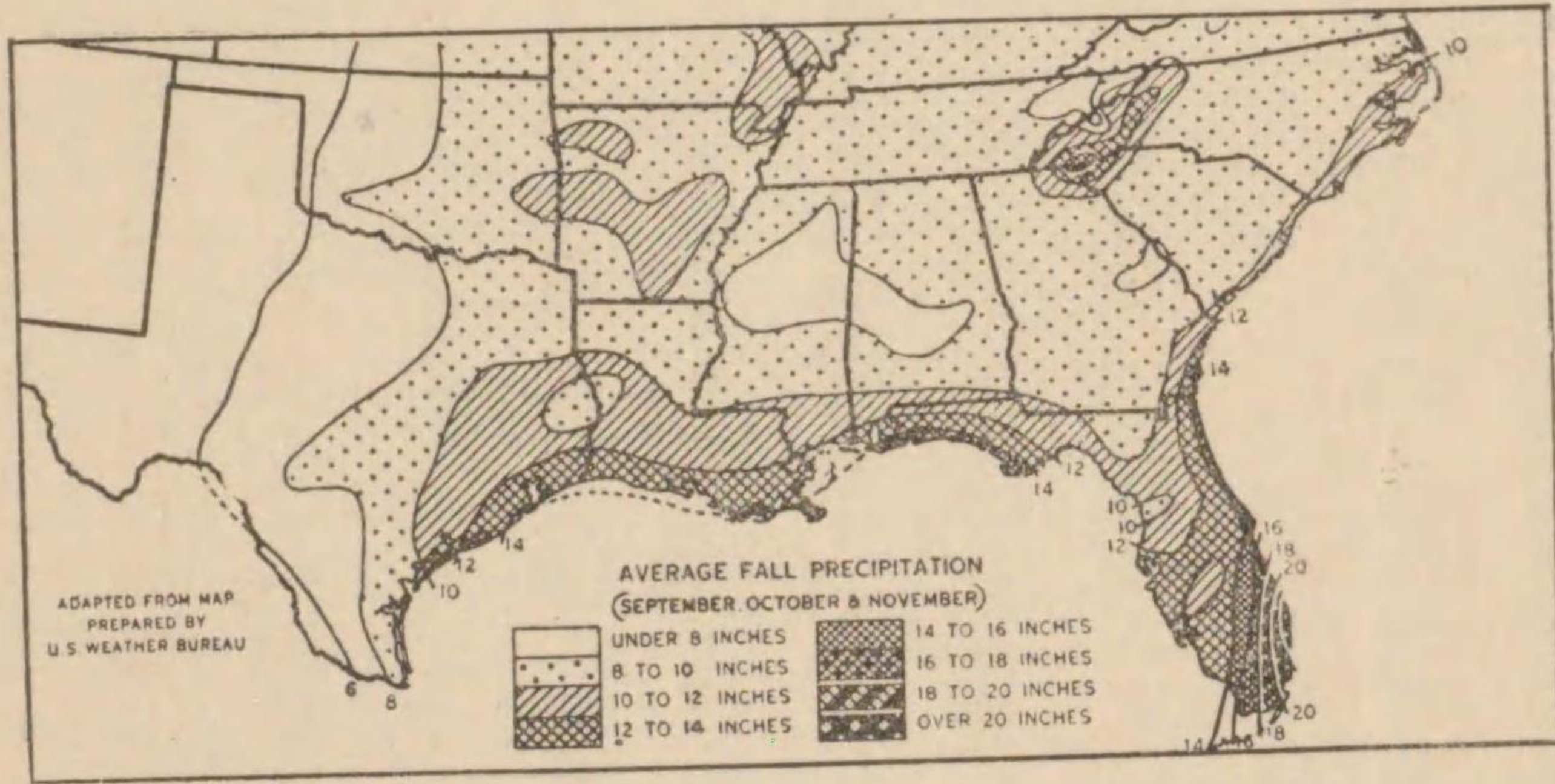
棉花には「水」の問題と共に「特殊な勞働力」の問題がある。棉花は元來が熱帯を原産地として居り、夏の溫度が少くとも華氏七十七度で濕度も亦大（一年降雨量六十吋）でなければならぬ。かゝる自然的環境に加ふるに棉花の摘取りは一刻を争うてなさねばならず、その野外勞働の過激なると共に機械力によらず人力に依ること大であり、且低廉なる賃金を必要とするなどの經濟的條件のため、到底白人勞働者の勞働に堪え得ぬところである。

註一 經費と害虫との關係から植付を遅くして成る可く花を一齊に開かせ一時に摘取る方策をとつてゐる。
 註二 摘取りは人力によるものと機械によるものとがある。機械はまだ一小部分にしか利用されてゐない。アメリカの如き機械萬能の國に於ても殆んど人手によつてゐる。けだし棉花の摘取りは低廉な勞働力を利用し得らるゝ上、棉花の成熟は一樣でなく且つ枝の方向が區々なので、機械の利用に不便だからである。

さればいづこに於ても棉花の耕作はその土人若くはその土地に適應して過激な勞働に堪え得る人種によつてなされてゐる。



106. 北米の棉花産額圖（單位50萬佛噸）
 點線の圏内は棉花地帯（Baker）

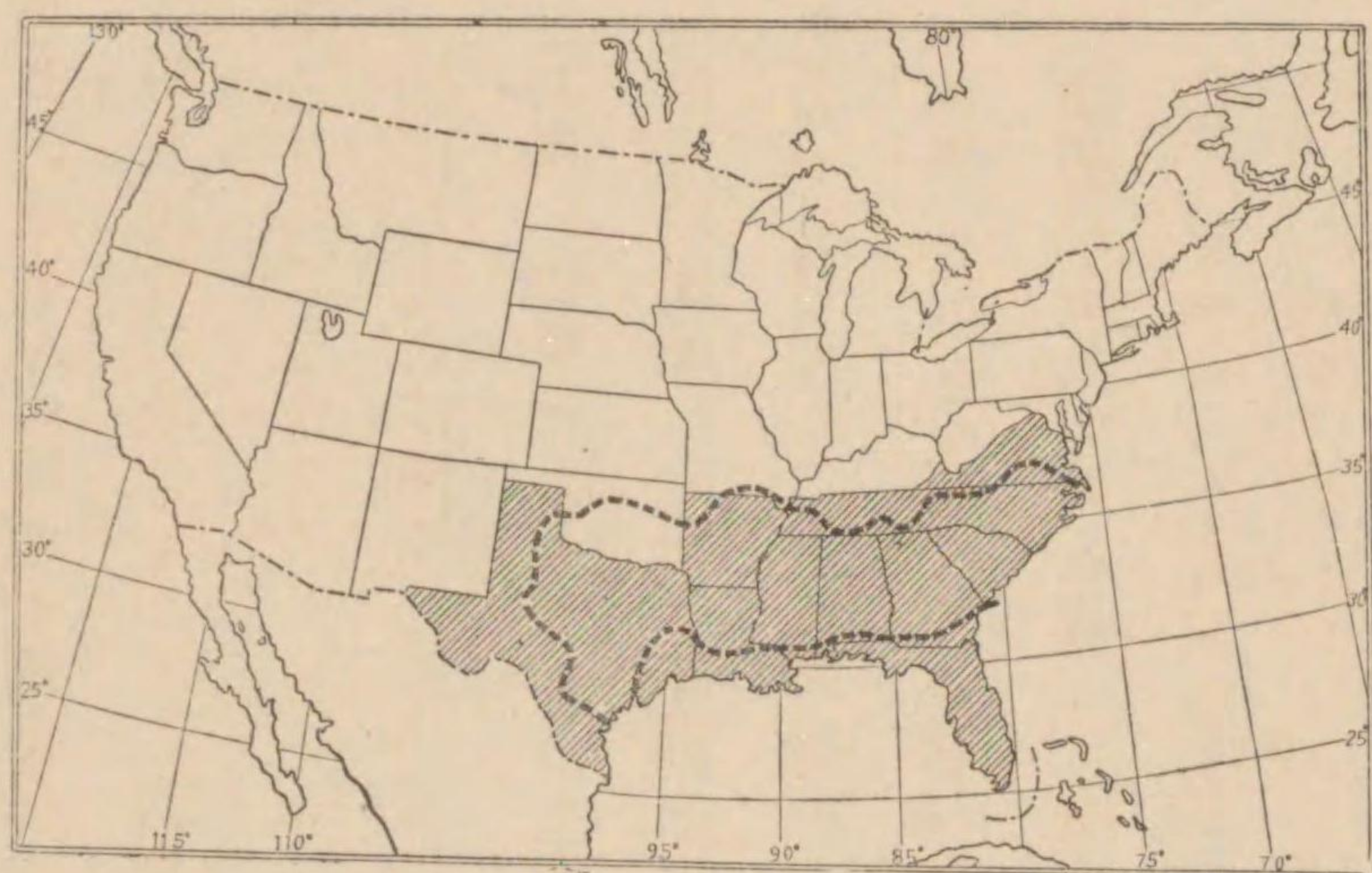


107. フロリダには秋に雨量が多い(Baker)
 秋の多雨は棉花の摘取を妨げ、棉花を害しWeevilの害を促す

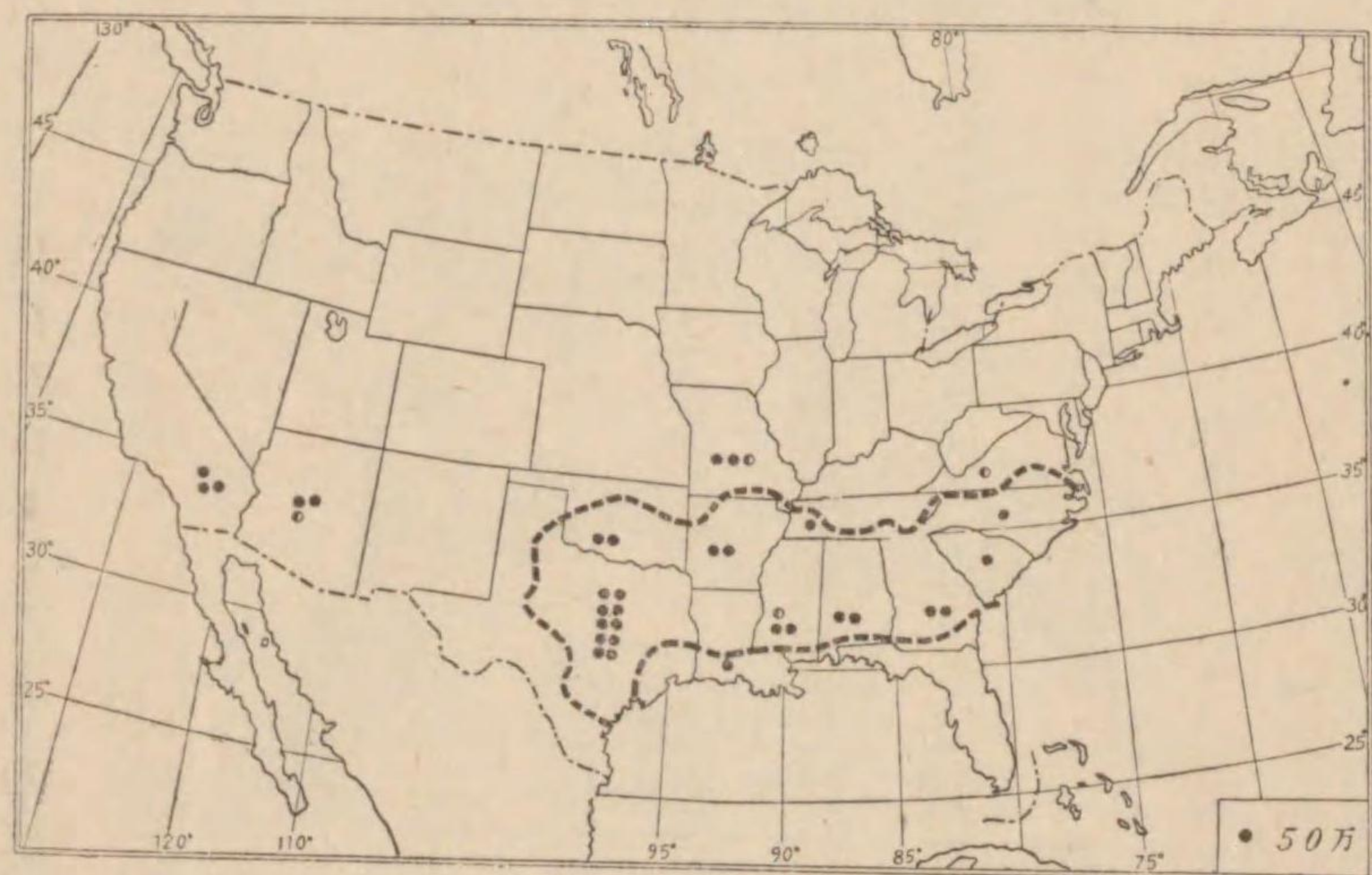
アメリカの棉花地帯の各州に於て棉花の産額高と棉花耕作者たる黒人の人口と一致して居り、棉花を中心としての經濟問題から黒人解放の政治問題となり遂に内亂とまでなつた南北戦争の時の南方の

諸州は悉くその土地の開發に黒人の勞力を最も必要とする棉花地帯の州であることなども棉花

の要する「特殊な労働力」の反映である。これによつて考へれば黒人は棉花地帯の土地文化の開
發の基礎である。



108. 北米の黒人分布圖(單位十萬人)



109. 南北戦争の南軍諸州

註 棉花地帯には春と夏とに雨が充分で秋は寡雨であることが必要である。それだから雨は棉花の開花を止め摘取りを妨げるからである。北米のフロリダや南部諸州の海岸地が棉花地帯でないのは、これらの地方は内地に比し秋の雨が多く棉花地帯の秋の雨量六乃至十時に比し一〇乃至二〇吋だからである。

この問題はアメリカにとゞまらぬ。イギリスが東アフリカに棉花耕作地開發のため印度より多くの土人を移住せし

めたが、今日この地に於て一萬五千の英人、五萬の印度人、一千萬の土人との間に種々なる人種間の社會上の問題が絶えないのである。而も爲政者としての英國よりみれば印度人も英國領土の人民なる故をもつてこれを排斥することも得ず、棉花耕作者としては尙更彼らの存在を必要とするのである。

けだし土人は懶惰であつてこれを労働せしむるには英人も大いに苦心をなし人頭税と小屋税とを課し貨幣をもつて納めしむるなどの方法をとつてゐる。

「白人の濠洲」を誇る濠洲もこの労働力の問題に困窮し、かのグリフィス・テイラー(前シドニー大學地理學教授)をして土地開發のためアジャヤ人を移住せしめよとの論をなさしめるに到つた。

世界に於ける棉花の地帯は廣く各地に分布し、一つの棉花地帯に於ても廣大なる地域に於ては播種摘取りの時を異にし又相接近せる土地でも種類によつて異なるのである。

註一 米棉はその棉花地帯が南北五百哩の間に横はつてゐるので、播種摘取りともに、南方より初まつて漸次北方へ移つてゆく。南方のテキサス州は最も早く三月中旬に植付を開始する。續いて四月に入るとフロリダ、アラバマ、ルイジアナ地方に移り五月初旬までに大抵の植付を終り、摘取りは七月末八月初旬から始まり、十二月までつゞく。新棉の出廻りは八月中旬であるが出盛期は九、十、十一月の三ヶ月である。

註二 米國と印度に於ける棉花の種別の植付及び摘取り日の表

州名	植付開始月日	摘取開始月日	摘取終了月日
ノース・カロリーナ	四、一五	九、一	一一、一〇
サウス・カロリーナ	四、一五	八、一五	一一、〇一
ジョージルシア	四、〇一	八、一五	一一、〇一
フロリダ	四、〇一	八、一〇	一一、〇一
アラバマ	四、〇五	八、一〇	一一、一五
ミシシッピ	四、〇五	八、一〇	一一、一五
ルイジアナ	四、〇一	八、〇一	一一、一五
テキサス	三、一五	八、〇一	一一、二〇
アーカンサス	四、一五	八、一五	一一、一五
テネッシー	四、一五	九、〇一	一一、一五
オクラホマ	四、一五	九、五〇	一一、二〇

産地	種別	植付月日	摘取月日
マドラス	チンネパリー カンボチャ ウエスタイン	十月	四月―六月
ハイダラバ ド	コカナダ	八月	四月
ボンベイ	シンド・デシ	六月	九月
アラバトチ	アラバトチ	七月―八月	一月―二月
タルワ	ダオ ルム ラ	八月	三月―五月
中央印度	ベヂ ン ゴ ール	五月―六月	九月
ベス ゴ ール 中央州	ロオ シム ラ	六月	九月―一月
合併州	ベロ ン ゴ ール	五月―十月	六月―十一月
バン ヂ ャ プ	シ パ ン ヂ ャ ド ア	四月	十月

その結果收穫期が世界全體からみれば殆んど年中あることになつてゐることは次の表について知ることが出来る。

棉産地	播種期	摘取期
シイアイランド(北米)	四月一日―五月一日	八月廿五日乃至十二月十日
エヂプト(同)	三月―四月	九月―十二月
アラビヤ(南米)	十一月十五日―六月一日	七月―十二月
ザヨルシア(北米)	四月十日―五月一日	八月十五日―十二月一日
フロリダ(同)	四月一日―五月一日	八月十日―十二月一日
ミシシッピ(同)	四月五日―五月十日	八月十日―十二月十五日
ルイジアナ(同)	四月一日―五月十日	八月一日―十二月十五日
アラバマ(同)	四月五日―五月十日	八月十日―十二月十五日
テキサス(同)	二月十五日―五月十日	八月一日―十二月二十日
アーカンサス(同)	四月十五日―五月十五日	八月十五日―一月
テンネッシー(同)	四月十五日―五月十五日	九月一日―一月十五日
ペンガ ル(印度)	六月	十一月―一月
ウムララテ(同)	六月	十一月―一月
アロー チ(同)	六月	十一月―一月
ド ラ(同)	七月	二月―四月
コン タ(同)	八月	二月―四月
ダル ワ(同)	八月	三月―五月
チン ネ ベ リ(同)	十月―十一月	三月―五月
マ ド ラ ス(同)	八月―九月	二月―四月
ヒン ガ ガ ット(同)	六月	十一月―三月

この現象は小麦の場合と同じである。棉花に於ても世界の商船は各收穫期に各産地と消費地とを循環しつつ航海してゐる。

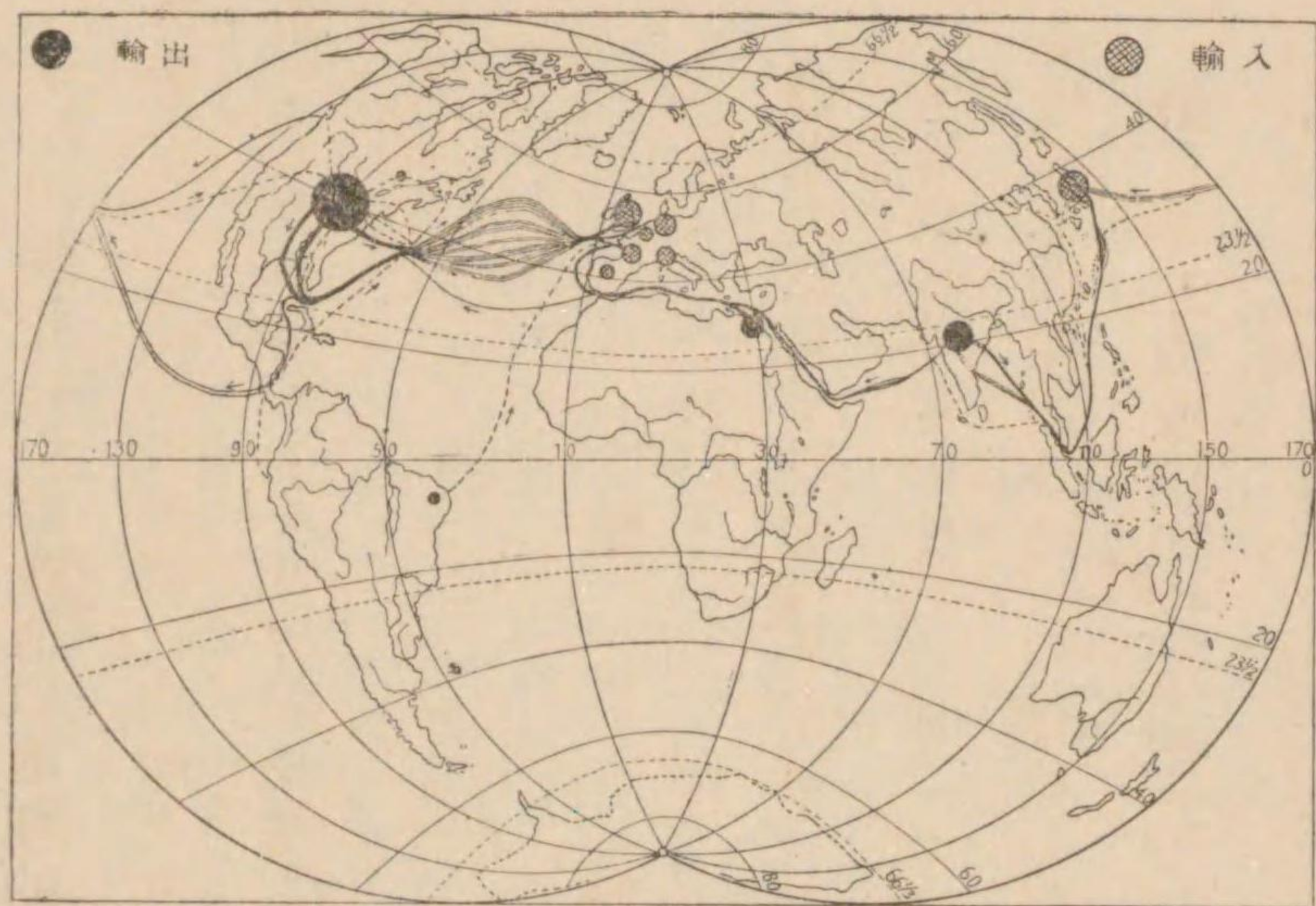
即ち米棉はメキシコ灣に臨むテキサス州のガルベトンが最も主なる輸出港で、ニューナ州(これに次ぐ。ただしこれらの港は棉花産地に最も近いばかり

でなく、アジア方面に對し太平洋沿岸のロスアンゼルス、タコマ、シヤトルなどの輸出港より棉花を輸出するよりパナマ運河經由の方が運賃が低廉であるなどの經濟地理的位置の優れてゐるためである。大西洋岸ではニューヨーク、サヴァンナ

ー(ジョージア州)ノーフォーク(ヴァージニア州)が棉花輸出港である。

印度にあつてはボンベイがその八〇%以上を輸出し、その外コロンボ、ツチコリン、ラングーン、カルカッタ、カラチの諸港より支那では上海を初めとし、漢口、青島、天津に集散され、埃及にあつてはアレキサンドリヤに集められ、ブラジルではペルナンブコより吐き出されてゐる。

これらの輸出港とリヴァプール、神戸などの輸入港は廣く世界各地に互つて分布して居る故、世界の商船も各産地の輸出期を追つて、世界的に航行循環をなしてゐる。かく棉花は世界の交通地理の上にも



110. 世界の棉花輸出入航路圖

重要な役割を果してゐる。世界棉花の輸出入航路は、大體「水」と「特殊な労働力」とに於て米國に内紛を起させ、英國を奔走せしめ、その收穫期が世界的にみて年中間斷なくあるをもつて世界の交通を運轉せしむるなど、棉花の經濟地理の上にもつ力が實に多大である。

砂糖

砂糖の原料は熱帯産の甘蔗と温帯産の甜菜とである。

世界砂糖市場の中心は西半球のキューバ、東半球のインド、ジャヴァ及びハワイで、こゝで全世界産額の四分の三を供給してゐるが、甜菜糖ではドイツである。

而してその取引の中心をみるに、世界戦争前まではドイツが世界の砂糖市場の中心であつたが今日ではロンドンと紐育とである。しかしヨーロッパ諸國が砂糖不足に苦しみその供給を紐育市場に仰ぐやうになつてからは、紐育が世界市場の中心となつてゐる。しかし産出的にニューヨークが砂糖の世界中心といふならば、ロンドンは消費的な意味に於て依然として世界の中心

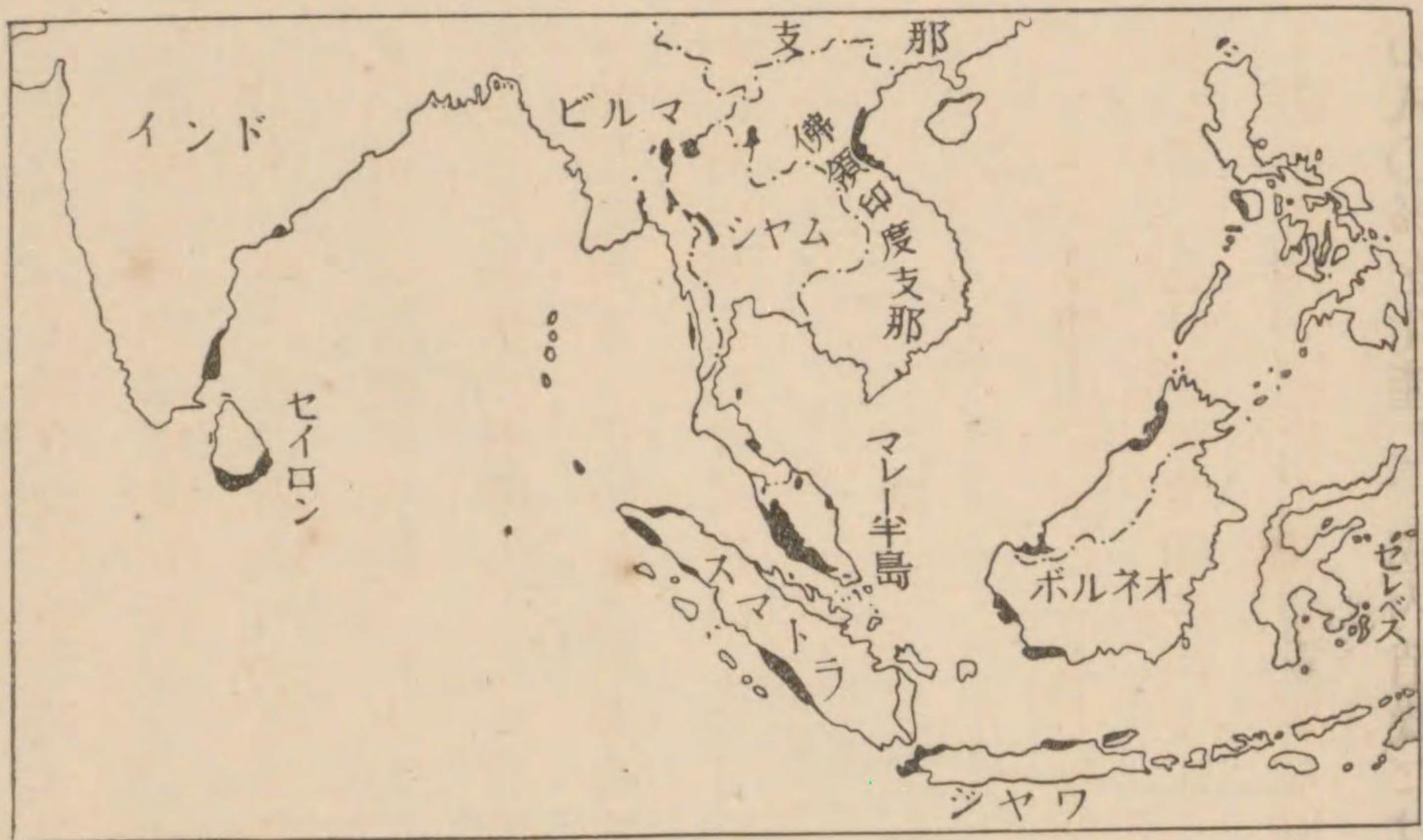
心市場である。

キューバは獨立國であるがニューヨーク砂糖市場の背景として米國の支配にある。そしてその製品は米國で精糖する。

ジャバ糖はその國內消費は一割位で他は全部輸出される。ことに東洋方面に輸出されるが、その市場の實權は支那人によつて握られてゐる。「砂糖の消費は文化の標準」といひ、文化の發達と共に砂糖消費額大となり、世界全體として二十年間に倍加してゐる。吾國では七八年間で倍加してゐる。しかし又果樹國のイタリヤ及び日本は砂糖の一人當りの消費は英國に比して遙かに尠いがそれは果物によつてその不足が補はれてゐるのである。

ゴム

ゴムが國際商品として重要な位置を占むるやうになつたのは近々のことである。自轉車が普及し更に自動車が發明されてから急激にゴムの需要が増加した。ゴムはタイヤ許りでなく、その他各種の近代工業の重要な原料品である。殊にアメリカ合衆國の如くゴムタイヤを世界の八〇%を生産し、國內消費だけでも他のすべての國の二倍に及び、自動車の如きは一ヶ年約



111. 南洋に於けるゴム生産地

十三萬臺、價格一億弗(一九二三年)の輸出をなす國にあつては、ゴムの需要も多く一九二三年に於ける生ゴムの輸入は三十一萬五千佛噸、價格一億八千五百萬弗に達し、全世界ゴム消費の七二・二五%(一九二七年)に及んでゐる。

かく多量のゴムを使用するにかゝはらず、合衆國は國內及びその植民地に於て——現代産業の基礎たる他の重要な多くの資源に於てはあらゆる國に優つて有してゐるにかゝはらず——殆んどゴムの産出を見ないのである。

一方世界ゴムの殆んど大部分(八五%)はイギリスの植民地及びその資本的植民地たる蘭領インドに産出して居り、國際市場獨占に於ける英米資本の爭覇の一つはゴムを中心として行はれてゐる。アメリカ合衆國がイギリス

のゴム獨占から免れんとしてあらゆる苦心努力をしてゐるのである。

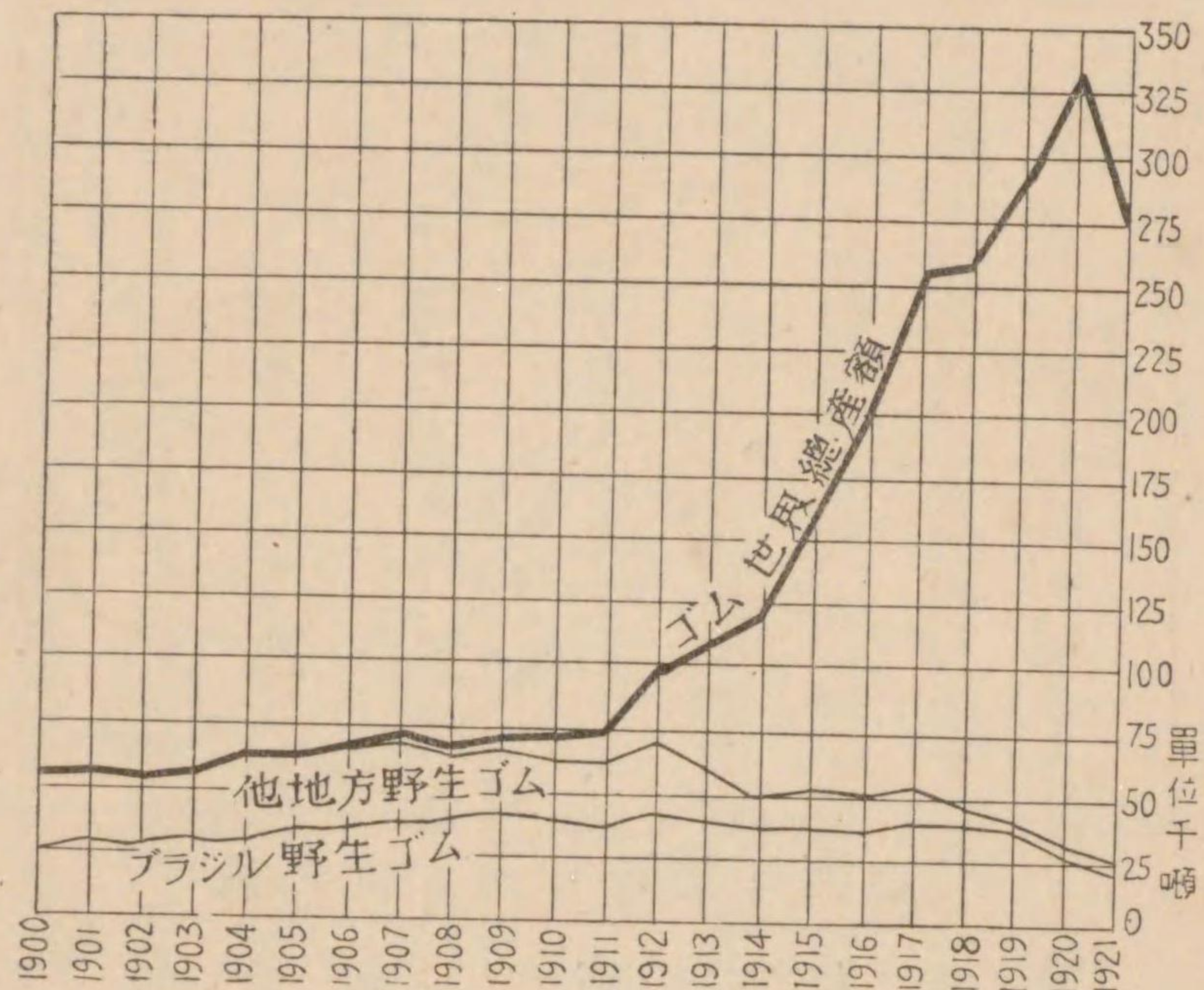
まづゴムはいかなる土地に産するであらうか。ゴムは高き温度(年平均華氏七十度)と豊富な雨量(年平均約七十吋)と、低平なる地形と深い土壤と無風とを好む。即ち熱帯及び亞熱帯地の

無風帯であつて(颶風の地方はいけない)一年の雨量が年平均等されて居り、地形が軽く起伏して、排水し易く土壤は軽い砂質ロームが良いのである。

この自然的條件に加ふるに、資本と勞働力の充分と運輸の便宜、安定な政府などの人文的條件がゴム栽培上に必要である。

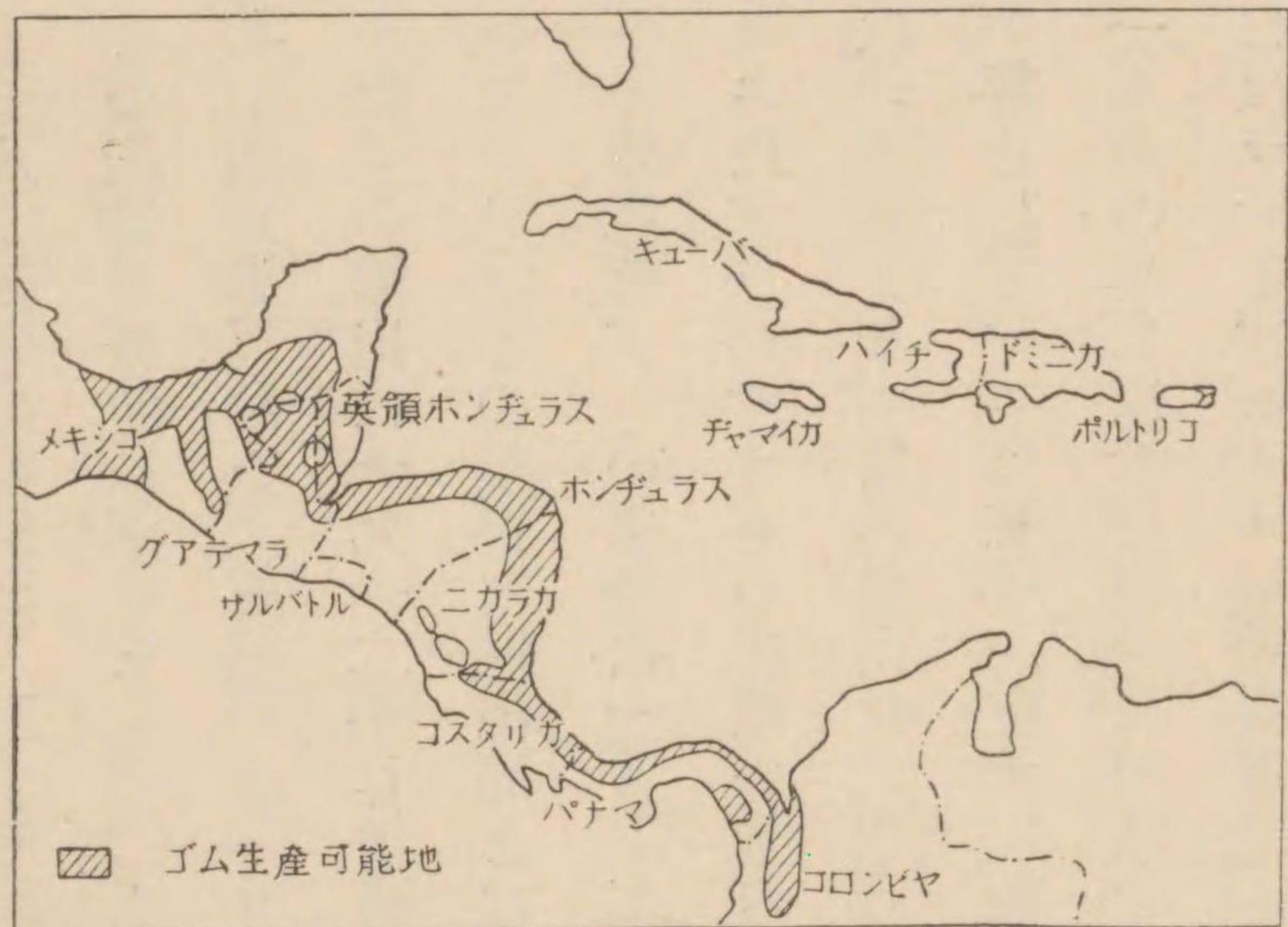
かゝる條件を満足する地方としては現在世界の最大のゴムの生産地たるマレー、セイロン、蘭領インドが最も適當である。東アフリカ、熱帯アメリカは自然的條件は満足するも人文的條件に於て缺けてゐる。

しかしゴム樹の故郷は南洋ではない。遙かに離れたるブラジルである。アマゾン河流域はま

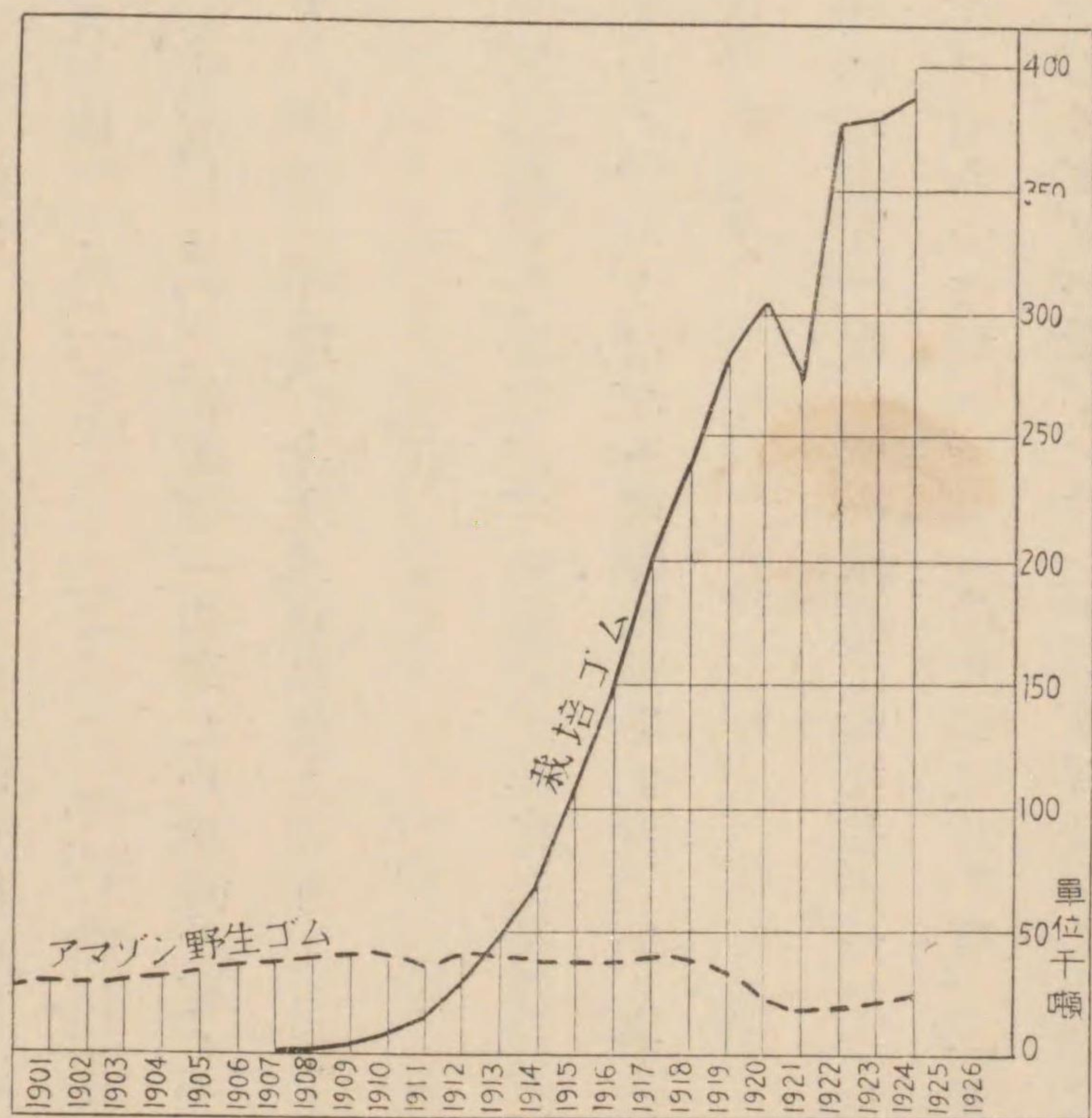


112. ゴム需要の激増

ことによくゴムの野生に適した條件を具備してゐる。アマゾン河は赤道に近く並行し、無風帯



113. カリブアメリカに於けるゴムの生産



114. 栽培ゴムの増加

で雨量は甚だ多い。十二月より五月までの雨期の氾濫によつて、上流地方の密林の腐殖土が運ばれて土地は肥沃、加ふるに勾配は甚だ緩で二千哩に亘り三十五呎の差しかない。野生ゴムの

種類も甚だ多く五百種、又はそれ以上に及ぶ。その重なるものは、ヘヴェア種 (*Hevea brasiliensis*) で最も優良のゴムであつて、商業ゴムの大部分をなしてゐる。

一八二五年に粗製ゴム三十噸がブラジルから輸出されたのはゴムが市場に出た最初である。この産業の發達は遅々として、次の七十五年間(一八二五年—一九〇〇年)に輸出が僅に二萬七千噸に過ぎない。前記のゴムタイヤーの需要によつて粗製ゴムの著しい生産を促し、ブラジルからの輸出は一九一二年に最高點に達し、四萬三千噸、七千八百萬弗となり、コーヒーに次いでブラジルの重要な輸出品となつた。

一時粗製ゴムの価格は一ポンドにつき三弗の騰貴をなし、ゴム業者が非常に利益した。マナオスはブラジルゴムの内地の重なる中心をなし、パラはゴムの輸出港である。かくてこの地方はゴムによつて富み榮えた。

暫くしてゴムの栽培が南洋に於ても行はれるやうになり、一八八〇年に初まつた。しかし、一九〇〇年には未だ僅かに四噸を算するだけであつたが、一九一〇年には八千噸、一九一三年にはマレー、セイロン及び東インドに於けるイギリス及びオランダの植民地からの栽培ゴムの産出高はブラジルの野生ゴムの産出高を越すに至つた。約十ヶ年間にブラジルの産額はいつも

一ヶ年約三萬八千噸内にとゞまつてゐた。しかしブラジルは「上流優良パラ」(*Upper fine para*) と呼ばれ、その品質に於て世界戦争後まではいかなる栽培ゴムも匹敵することが出来ぬほどの優等品であつた。戦争後野生ゴムの価格は下落し(一ポンドにつき二十セント)ブラジルのゴムは殆んど廢滅した。即ち一九一二年に約七千八百萬弗の輸出をしたブラジルが一九二二年には約六百五十萬弗に落ちた。ゴム採集者の大部分が職を他に求めるやうになつた。イキトス・マナオスをはじめとしてアマゾン流域に於けるゴムの中心地の人口は急激に減少し、嘗つての繁華は夢と化し、この地方の唯一の産業たるゴム業は、他方のヨリ科學的なヨリ低廉なゴムの競争によつて全く衰へてしまつた。アマゾン野生ゴムの市場価格は栽培ゴムの約二倍である。一方栽培ゴムも改良されて今日ではパラゴムに劣らぬ優良なものが出来るやうになつた。今や栽培ゴムは全世界供給の約九五%を占むるに至つた。ゴムの価格は一九二五年以來イギリスのゴム産出制限によつて急速に騰つた。

栽培ゴムはマレー、セイロン許りでなく熱帯アメリカの各地に行はれるやうになつた。然しまだ成功といふに到らず有望といふ域にとゞまつてゐる。

ゴム産業に他のいづれの國よりも密接な關係を有するアメリカ合衆國にとつて、熱帯アメリ

カ殊にカリブ海沿岸のゴム栽培の將來は甚だ重要である。

メキシコは一般に高臺であるが、ユカタン半島の海岸に沿うた比較的狭い帯の様な低地はゴム栽培地として絶好である。中央アメリカは山脈と低地とが割然たる特性を有し、ニカラガの低地を除いては概ね平原は海岸にある。大部分これらの平原は連続してゐないが、最大の面積はカリブ海に沿うて存在する。これらの土地は *Hevea brasiliensis* の生産によく適してゐる。

尙ゴム栽培地として有望なのはテハンテベック地峽、南メキシコのチアパス及びカンペ州、北グアテマラのベテヌ地方、ホンヂユラス、ニカラガ、コスタリカ、パナマの海岸平野殊にバナマに於けるコーレ河及びチンキユナキイ河の流域である。

テハンテベック地峽の低地は充分な(殆んど年に二百吋)雨量と静かな風と豊饒な處女土壤の地で約一千万エーカーが開拓し得る。こゝより東に移ると海岸に廣い平地があるが、雨が漸く減少してくるので利用されない。チアパス州では多くの低い河谷、例へばグリヤルバ河の流域などは肥沃な濕潤な土壤で、少くとも百萬エーカーの土地が開かれ得るのであらう。カンペへの南の地方は雨量が七〇吋以上で、こゝも同様の面積が望まれ得る。ペタン湖の周圍の火山灰土壤の低地及び北グアテマラのバストーン及びウスマチンタ河の支流の地は有望である。ホンヂ

ユラスの北方の海岸平野には約幅百五十哩、長さ四百哩の廣い地帯がある。この地方は貿易風と雨量とがよく均等され、その沖積土約一千五百萬エーカーの土地が腐敗した密林植物によつて肥沃にされゴムの生育に好適である。加ふるにこの地方はバナナ栽培がひろく行はれて居り、ために鐵道運輸の便も行き届いてゐる。

ニカラガの東海岸は二千呎以上の濕地でないところに約四百萬エーカーの適地がある。かかる土地はゴムの自然的故郷とも言ふべき處である。アメリカ合衆國が近年ニカラガに經濟的に政治的に益々近接して來たことはまことに故あることである。グランデ河及びブリュールド河近くの地方は餘すところなくよく排水されて居り、やはり好適の地たるを失はない。

コスタリカ及びニカラガでは約二百五十萬エーカーの適地がある。サン・ジュアン河及びその支流サン・カルロス及サラヒイキ河流域には同様の面積が存在してゐる。バナマに於ける有望の地はコルデレラ山脈に沿うて不規則に分布してゐる。即ち河谷の肥沃な土壤、一年に少くとも百三十三吋の雨量と平均華氏七十二度の温度の地たるコーレ河、ツイラ河、ツキナキ河の盆地及びボカスデル・トロとダリエン灣附近の帯の如き海岸低地約二百萬エーカーがゴム生産地として理想的である。たゞこの地方は交通の不備とインディアンの反抗との困難が伴ふ。

コロンビアのアトラス河谷はカリブ海南岸に沿へるいかなる地方よりも優れた土地である。海岸近くの劇しい暑熱は東北の貿易風によつて緩和され、雨量は絶間なく、平均年約百六十吋に及ぶ。たゞこゝも交通の不便と労働力の不足とが伴ふ。ポルトリコでは沖積平野に五十萬エーカーと北方海岸に沿つた少し高い石灰岩地方は利用し得るやうである。雨量は少くとも七十五吋はあり、年中耕作可能の地であり、労働力も充分あり、交通も車馬によつて比較的容易になされ得る。

これらの多くの有望な地方の利用には多くの問題、第一に運輸上の問題が存在してゐる。なしろこれらの地方はいづれも劇しき暑熱と豊富な濕氣とによつて密林となり交通を妨げるこゝとが甚しい。それでその開墾にあつてはまづ土地を整理しなければならぬ。濕潤の地だけに蚊が多い、故に排水しなければ労働者の健康が保ち難い。

第二に労働力の問題がある。この地方の土人の使用は彼等に労働せんとする意志なきによつて困難である。白人の労働は更に困難である。而も東洋よりの移民は望ましくないとすれば、永久にこの地方の開発は望まれない。結局土人の強制労働といふことになつてゐる。

以上に於てみたる如く、カリブアメリカの東海岸の熱帯の低地及び河谷に於て、約四十萬エ

ーカーの土地がゴム生産地として有望であることが判つたのである。これらの地方が全部開發されるとすれば、アメリカ合衆國のゴム消費をこの地方だけで供給して尙餘りあるものである。又よし合衆國が現在の割合でそのゴム消費を増加してゆくとしても、尙その大部分をカリブアメリカで供給し得るのである。

この地の開發には過去に於て外國人の投資がさかに行はれた。アメリカ合衆國が今このラテンアメリカにモンロー主義をもち出したのは、全くこの地方のゴム生産可能地を獨占せんとする企圖に外ならない。

合衆國はかく經濟的にイギリスのゴム支配から免れんとしてゐる外に、政治的にもその獨占組織の解體を試みてゐる。即ち世界戦争終結以來イギリス植民地のマレー半島、セイロン島等からのゴムの輸出は生ゴムの價格如何に従つてロンドン取引所で定められてゐた。これによつてイギリスのゴム栽培者は長年の間莫大な利益を得てゐたのであつたが、しかしこのことがアメリカの自動車所有者の憤懣を喚び起した。

かくてイギリスのゴムの獨占的地位は三つの方面から見事に攻撃された。即ち、一は上述の如くゴムの生産は蘭領インド、カリブアメリカ及びその他の諸國に於て急激に擴張された。二

はアメリカの工業は廢物のタイヤの實用的再方法を發明した。三はアメリカの購買者は購買獨占を結成した。そして却つてこのアメリカの對抗的獨占がゴムの價格の上に於てゴム市場を支配せんとしてゐる。

羊 毛

世界の牧場分布をみるにその飼料たる穀物耕作分布と一致してゐる。ヨーロッパは一帶に家畜の數も多いが悉く自己消費をなして尙不足の状態である。供給地としては米國プレイリイ、南米のラブラタ地方、南アフリカ濠洲の東南部及びニュージーランドである。

かやうに羊毛の産地は大部分英國の領土に多く、その産額は世界市場の半以上を占めてゐる。羊毛には數十種の種類があるがメリノ羊毛が品質最も優良である。濠洲羊毛の産出高は世界總産額の三割以上で、而もそれがメリノ種であることは濠洲の強味である。

それらはシドニー、ブリスベン、シロン、アデレードに集るが、市場の中心はシドニーである。日本では殆んどメリノ種のみを輸入してゐる。

英國はその獨占的地位を利用して羊毛の價格をつりあげんとしてゐる。

雑用品としてニュージーランド、南米、支那がある。ことに支那は極東に近い關係上重要である。

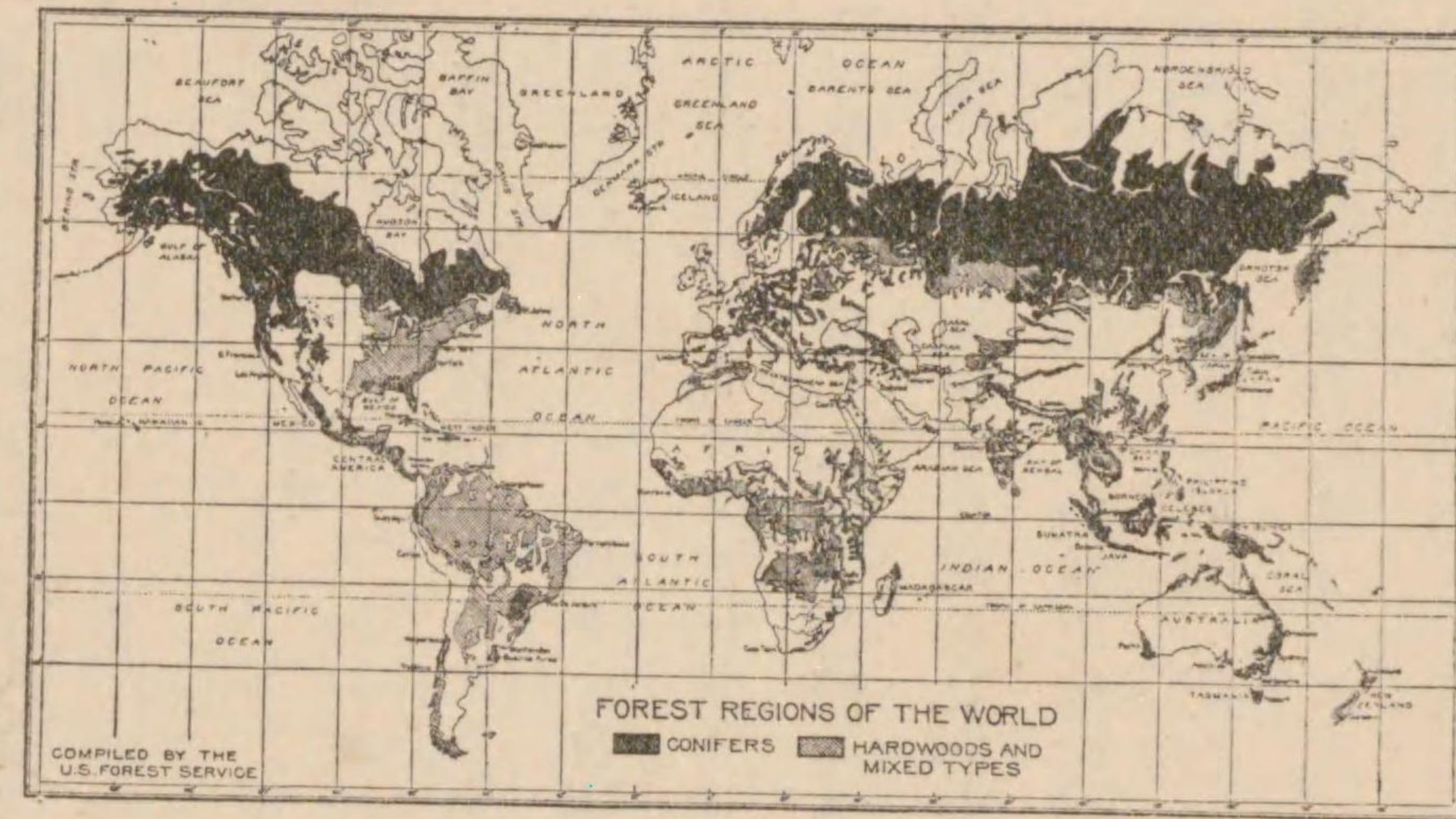
木 材

世界の木材市場よりみたる主要森林の分布は舊大陸ではアムル河流域及びロシヤ一帯及びスカンデナヴィヤ半島ドナウ流域で新大陸ではシエラ・ネヴァダ及び海岸山脈を中心とした米國太平洋海岸からカナダに及ぶ地帯とメキシコ灣沿岸地方である。

その外全世界にはまだ開拓されない即ち未だ木材市場にあらはれない廣大の原始林地帯が北極圏に近い地方及び熱帯に存在してゐる。

木材の産出はその搬出輸送の便宜上から河川に集中されてゐる。従つて廣大な森林地帯を流る、河川と雖もその河の出口が市場的地位を得てゐないときには利用されない。シベリヤの大森林が現在世界市場よりみてそれほど重要な地位を占めないのはそれ故である。その開發も僅に三%に止まつてゐる。

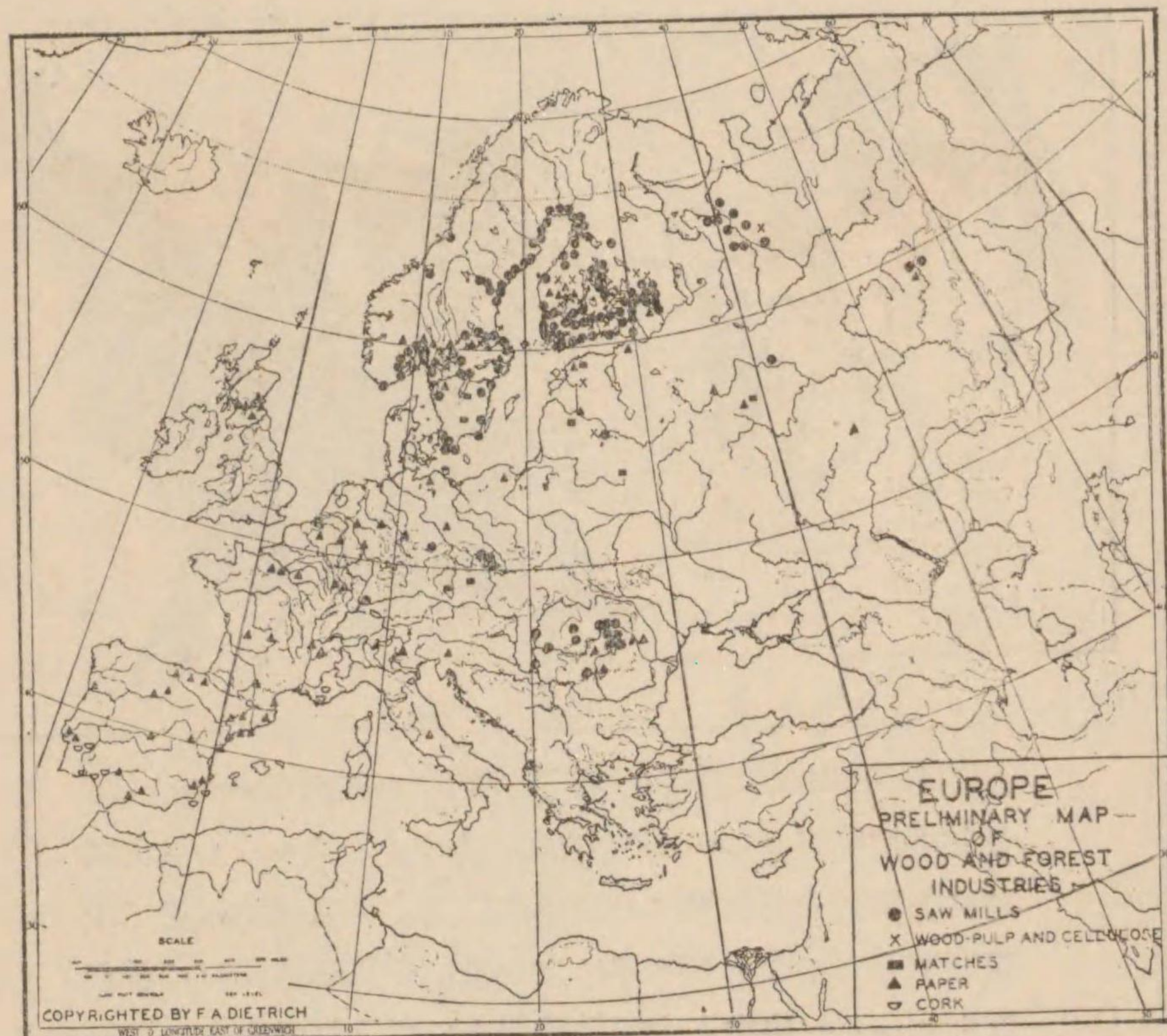
ヨーロッパではスカンデナヴィヤ半島及びフィンランドの森林はその需要地の中心に近接して



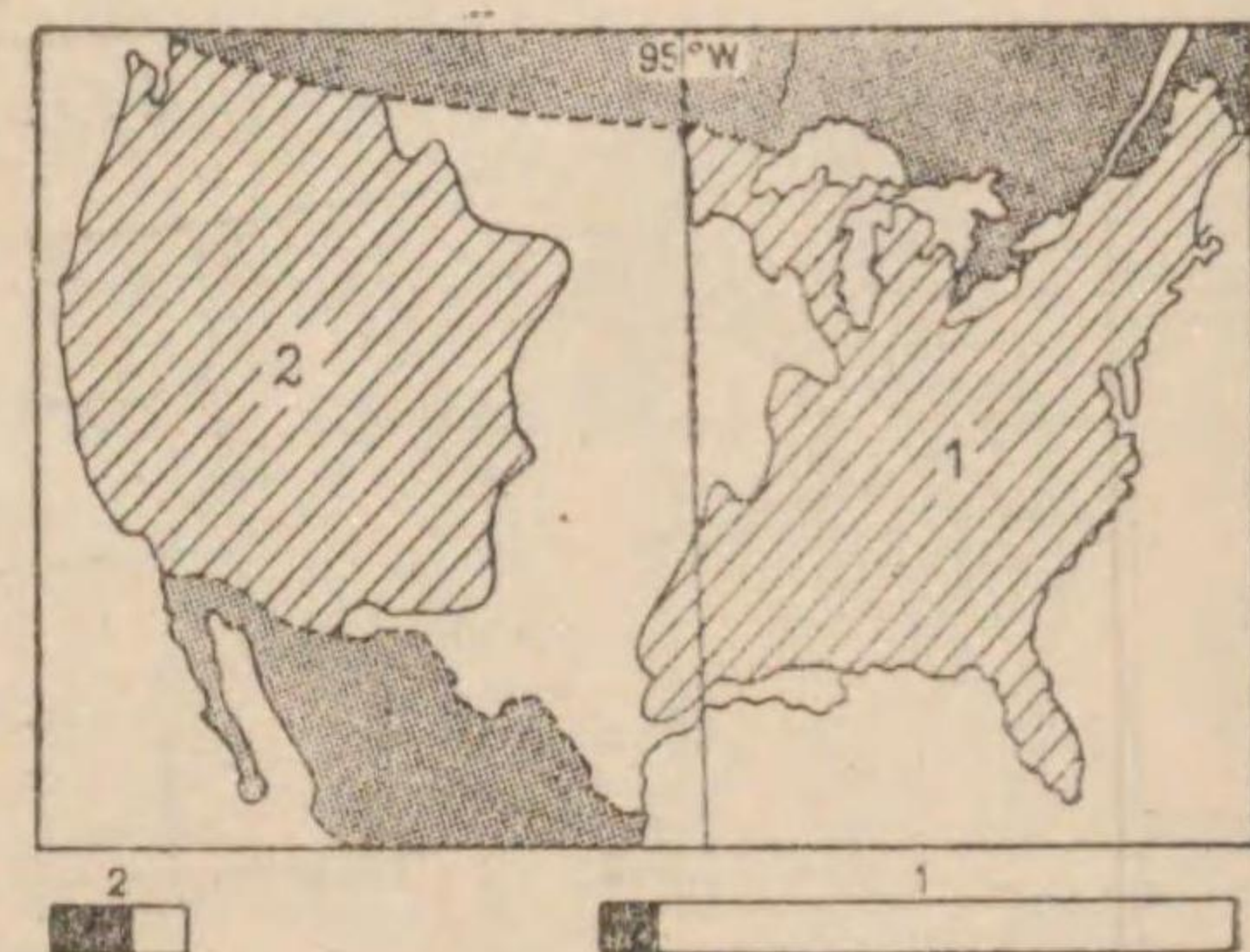
115. 世界の森林分布 (Zon and Sparhark)
 松柏科の森林は殆んどすべての軟かい木材を供給してゐるがそれは北半球温帯に限られてゐる。これらは主として薪炭、パルプ用のものである



116. 歐羅巴の森林分布 (Dietrich)

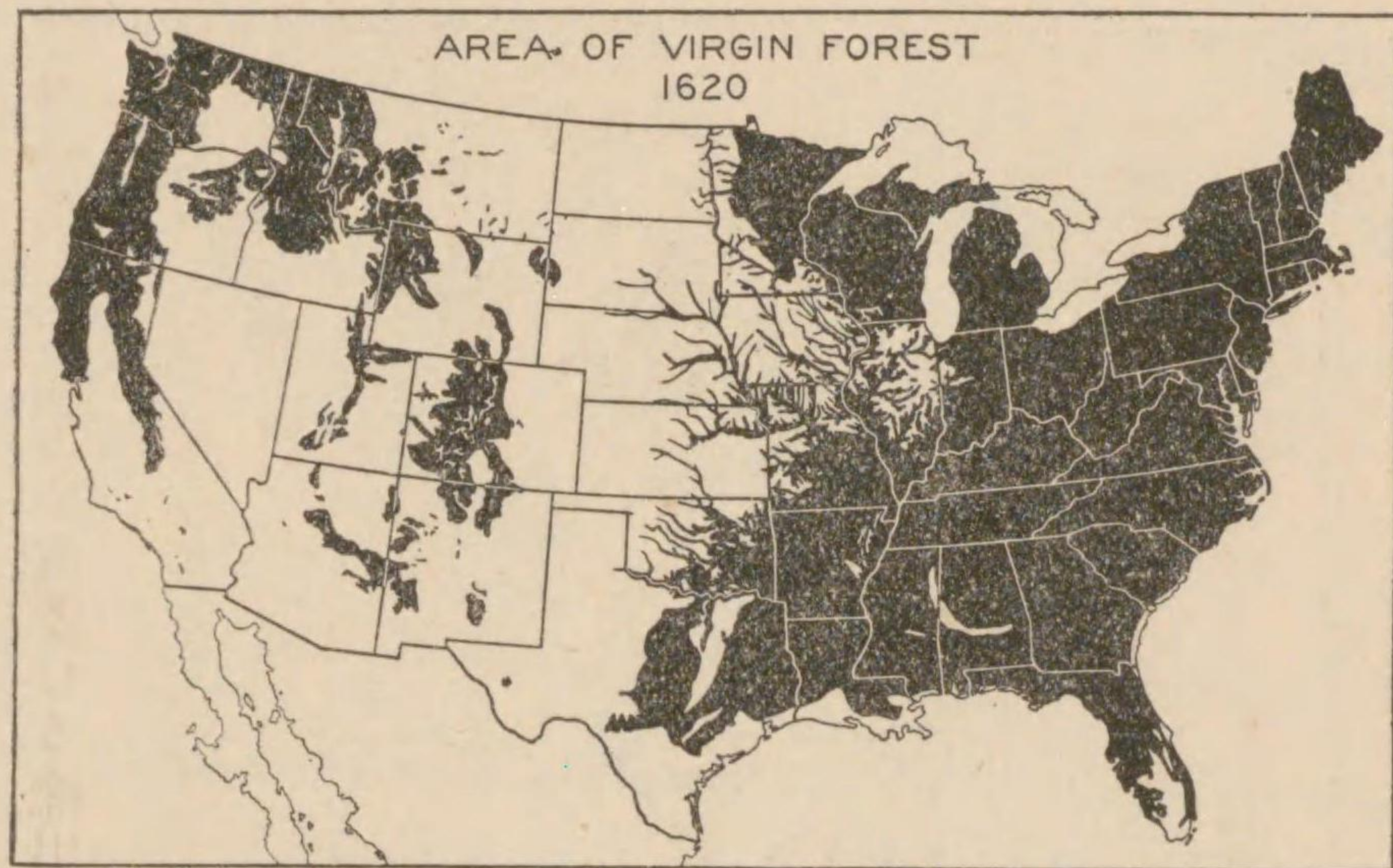


117. 歐羅巴の木材産業分布 (Dietrich)

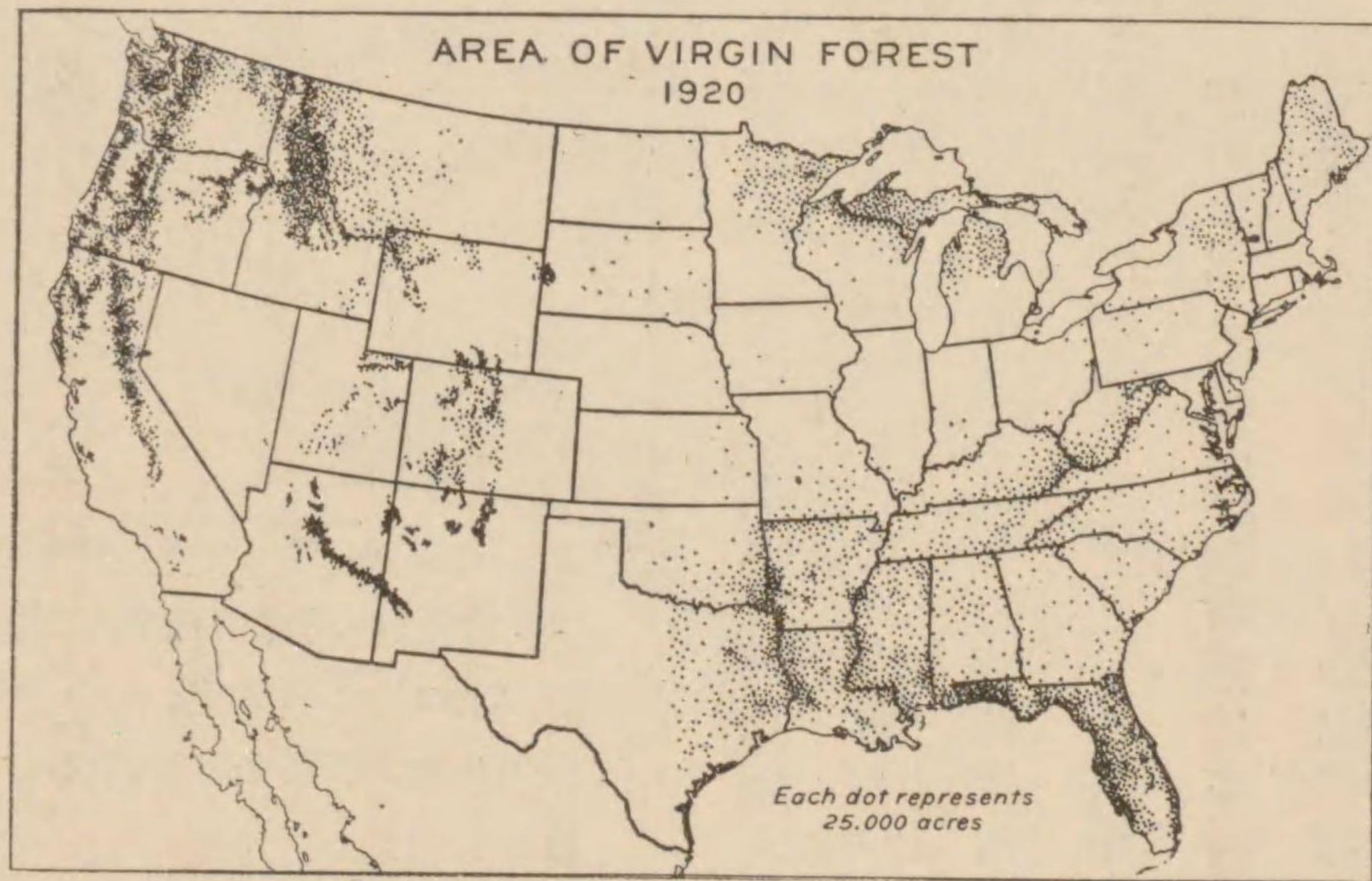


118. 合衆國の森林地帯の移動 (Lütgens) まづ東部、それが利用し盡されて今日は西部へ移動した。

冬季に雪上の作業が容易であることも便宜となつてゐる。ドイツの森林も曾てはヨーロッパの



119. 1620年に於ける米國の處女林分布(Greeley)
 最初の植民がやつて來た1620年當時はミシシッピー河以東は全部處女林に被はれてゐた。其の面積は約八億二千萬英町もあつた。1920年には一億三千八百萬英町に減じ而もロッキー山中と太平洋諸州とに限られてゐる。



120. 1920年に於ける米國の處女林の分布

重要なる供給地であつたがその自國の消費の多いため今日市場には出て來ない。ドナウ河流域の森林はその地方の重要なる輸出品で、主としてドイツ及びイタリヤへ供給してゐる。

註 スウェーデンの五割二分は森林で(全面積に對する比ではフィンランドの六一%に次ぎ世界第一)耕地は約九分の一、荒廢地は約三分の一、沼澤は十二分の一と稱せられてゐる。氣候が適順で土壤が肥沃で、森林開



121. 瑞典の人口分布は河の流域と完全に一致してゐる(Lütgens)

拓以來概して多年を経てゐると同時に森林保護が十分であるために、南部は面積の割合に多量の木材が出る、但し南部地方の木材は主として國內消費に充當せられ、北部地方の木材は主として輸出に仕向ける。

木材輸出では米國、瑞典、ソヴィエトロシア、フィンランドの順である。スウェーデンの林業はその國の富の一大要素であるから、廣い林野を科學的に管理し、林産關係の諸工業を發達せしめてゐる。都合のよいことには木材運搬のために非常な水運の便を有してゐることである。

今日世界木材市場にとつて重要な位置を占むるものはその資源の豊かなる點及びその地理的

地位の良好なる點に於て北米の太平洋沿岸の森林でこれらはシャトル、ポートランド、タコマより出される。これらの港へは奥地から河流を利用して直ちに搬出し得る。一九二二年以來日本はその需要の多いため木材の飢饉となり、「米材」輸入をしたが今日では世界に於ける有数の木材消費國となつた。

米國は今日世界木材の市場を支配してゐる。

石 油

今日世界經濟の上に從つて世界政局の上にキャスティング・ヴォートをもつ程の力を有するものがある。その魔物は何であらうか。實に石油である。「石油は地球の血なり。」とか、「石油を利するものは世界を利す。」とかいふ言葉こそ、新しき時代の標語である。

近代の産業の動力としてその革命的役割をもつて來たのは石炭であつた。然るに現在では石油がその位置をとつて變つてゐる。

その故は、その有する力の相違からである。石炭を用ふる蒸氣機關と、石油を用ふるディーゼル機關とは、その利用し得る熱のエネルギーの上に一と三との差異があり、勞力の點では

四と一との比例である。従つて石油は逐年産業交通及び軍事の上に益々多く且つ廣く用ゐられるやうになつた。自動車、飛行機の如く現代の産業の先驅をなす機關は言ふまでもなく、船艦だけについてみても、イギリスの如きは、世界戦争の初期には、石油燃料を用ゐた軍艦は約三〇%に過ぎなかつたが、休戦に際しては九五%に増加した。商船についてみれば戦争直前、石油燃料を用ひた船舶三七〇隻約一三三萬トンであつたが、一九二一年には二五〇〇隻一、二七五萬トンを超えてゐるのである。即ち世界戦争は動力としての石油の價値を著しく高めたのであつた。さればこそ油田の獲得は世界經濟の覇權を制する上に重大なる鍵を握ることとなるのである。

世界に於ける主なる油田の分布をみるに、北アメリカ、メキシコ、ヴェネズエラ、ルーマニヤ、カウカサス、北ベルシヤ、蘭領インド等であるが、その中アメリカ合衆國のみで全世界の産額の七〇・六%(一九二六年)を産してゐる。

一九二六年に於ける全世界の石油の産額は一一億バレルの大ききのほつてゐるが、逐年の石油消費の激増は(前述の如く石油の價値が著しく高まりその消費が廣く多方面に及んだ結果その消費額は十年毎に倍額となつてゐる)今後一層その加速度を増すことと考へられる。よつて

來るべき石油涸渴の時を豫想して憂ひてゐる人もあるが、全世界の油田が悉く掘鑿されたことでもなく未だ未踏査の幾多の處女油田が存在してゐることであらうし、又すでに採掘された油田が悉く涸渴の徴候が見えたわけでもなく、又頁岩などより石油を採取する方法も考へられてゐること故、石油の將來はその價值と共にまさに洋々たるものであらうと考へられる。

而も又一方、石油は現代に於て最も重要な國際商品の一つであるが故に、消費市場といふ點を考へて生産地の地理的位置が重要である。

かくて、ヨーロッパの市場に對してカウカサスの油田が他のルーマニヤ、メソポタミヤ、ペルシヤ等の油田に比し優越なる位置を有する所以である。即ちカウカサス及び露領トルキスタンの油田はその中心地たるバクーに集められ、そこより石油導管によつて直ちに黒海の港バツームに送ることができ、そこより汽船によつて歐洲の市場に最も近接することができるのである。

極東方面の市場に於ては蘭領東インドの油田が有利なる位置を占める。

アメリカの市場には合衆國みづからの産額をもつてこれにあつるけれどもメキシコの油田は合衆國と國土相接してゐる關係上重要視されてゐる。又、南米に於ては未だ充分開發されてゐる。

ないのだが、ヴェネズエラ、ペルー、コロンビヤ、アルヘンチナの諸國みな相當の油田を有するをもつて注目されてゐる。

これらの重要油田の爭奪には世界の列強の腐心してゐるところであるが、この國際的爭奪の中に特に際立つて立てる巨人は二つある。即ち、一は英國を代表するローヤル・ダッチ及シェル會社聯合であり、他は米國を代表するスタンダード石油會社團である。

世界經濟戰は結局石油々々の爭奪戰であり、これは同時に兩會社の戦ひであり、經濟地理の上に看過し得ざるところである。

まづ、石油の二大トラストの一たるローヤル・ダッチ及シェル會社聯合よりはじめやう。

ローヤル・ダッチの起源 蘭領東インドに石油のあることは十七世紀の初め頃より知られてゐる。その後各地試掘の結果スマトラ島に優良確實な油田を發見し、一八九〇年六月十六日アムステルダムに王立蘭領印度石油採掘會社が設立された。「王立」といふのは當時のオランダ王ウィルヘルム三世から特に許された名である。普通簡單にローヤル・ダッチといつてゐる。これがローヤル・ダッチの起源である。

後、ボルネオ及びジャバにも續々油田が發見されたが、米油、露油との競争のため經營は

容易でなかつた。然し消費市場たる支那及びインドに對する距離の點で、他の二者に對して壓倒的優勢の地位にあつた。

ローヤル・ダッチ會社の事業の盛んになると共に、蘭領インドには澤山の群小石油會社が出来た。ロ社は外國市場に於て米露の強敵と角激すると共に、多くの國內競争者と相競はざるを得なかつたが、次第にそれらを併合し却つてその大をなした。その競争會社と取引關係のあるのにシェル會社といふのがあつた。それは英人サミュールの設立したものである。サミュールはロンドンの一貝殼商に身を起し、サミュール會社といつてボルネオの石油業に従事し、その採取、精製を行つてゐたが、事業の大となると共に一八九七年もとの職業の名をとつてシェル(貝殼)會社と改め、専ら石油の輸送販賣に従事することになつた。

こゝに於てロ社とシェル社との競争が漸く激しくなつたのである。シェル社は極東方面に多数の石油輸送船、油庫を有してゐたので、販賣方面では優勢であつたが、一八二〇年兩社の妥協を見、加ふるに、パリに於て銀行業を營むイギリスに於けるユダヤ系の大富豪ロスチャイルド家の資本團と結合するに至つた。而して、ロスチャイルド家はロシアの石油業に出資してゐるので、おのづから多年の競争相手たる露油との競争も避けられるやうになつた。かくなつた

上は、その相手はアメリカ油たゞ一つとなつたのである。

而もその唯一の好敵手なるアメリカ油はスタンダード會社トラストの經營するところのものであつて、實に容易ならぬ敵であつた。

スタンダード石油會社 ローヤル・ダッチが富豪ロスチャイルド家の資本によると同じくスタンダード石油會社は一八七〇年ジョン・デヴィソン、ロックフェラー兄弟、サラエル・アンドリュース及びニューヨークに於ける二大商人との共同出資(創立當時は資本金百萬弗二年の後には二百五十萬弗、四年後には二千五百萬弗と急激に増資せられた)の下に創立せられたものでジョン・デヴィソン社長として専ら之が經營の任にあたり、その敏腕は會社をして年と共に盛大に赴かしめた。僅か六十年の歴史を有するにすぎないが石油産業の獨占を目的とする最初の大トラスト創設に成功し、たゞ單にアメリカの産業の怪物として恐怖せられた許りでなく、その獨占の魔手をもつて世界制覇を試みてゐる。元來會社の業務は他に依つて採油せられた原油の精製及びその輸送に従事するを以つて主なる營業とし、漸次今日の大を來したのである。従つて同社營業本來の性質から油井の開鑿採油の如きは、同社に於ては寧ろ第二に位する従たる業務であつた關係上、今日に於てもその營業方針は尙同一の傾向を辿つてゐる。従つてス社は世界屈

指の大石油會社としては所謂油田及油井の數も僅少である。

創業當時に於けるジョン・ロックフェラー氏の炯眼早くも本社將來の業務の發展は、輸送精製その他總ての機關を統一するにありと看破して、一八八二年米國最初のトラストを組織した。そのために本社業務は異常に盛大に赴き、トラストの偉力愈々發揮せらるゝため、非難の聲高く、遂に國民の輿論は政府をして反トラスト法案を公布せしむるに至り、一九一一年トラスト解散を命ぜられたが、それまで社は世界の石油市場に君臨したのであつた。

最初トラスト組織當時の社は四社より成つた。即ち、その頭にスタンダード石油會社の名を冠するオハイオ、ニューヨーク、ペンシルバニア、ニュー・ジャーシー及び本社であつたが、解散の時にトラスト加入從屬會社は約七十社に達してゐた。トラスト解散後に於てこれらの從屬會社はたゞ表面上獨立會社にその形を變じたのみで、その監理は依然ス社系統石油會社の中樞であるニュー・ジャーシー・スタンダード石油會社(同社の資本金は現在六億弗をこえてゐると言はれてゐる)に依つて掌握せられてゐる。

現在ス社の驚くべき強大な財力は米國政府との密接な關係と相俟つて世界石油界に絶大な偉力を揮ひつゝある。

即ち、ルーマニヤのロマノ、アメリカナ、イギリスの米英石油會社、カナダの國際石油會社等はその著名なる「娘會社」團である。これらの會社は更に幾十幾百の群小附屬會社を制禦してゐる。國內市場を完全に征服したス社は更に世界市場征服のため進出してローヤルダッチとの經濟戰となつたのである。

兩者の戦ひは石油市場としての處女地として而も人口饒多従つて需要力の大なる極東殊に支那に於てゞあつた。即ち、支那に於ける戦ひは兩者の世界市場獲得の成敗の分岐點であつた。従つてその廣告のため莫大の費用を投じて惜しまなかつた。ス社は美孚洋行の名をもつて、ランプを支那人に無代に配布し、支那人に石油の需要を喚起し、市場の開拓に努力した。一九〇五年頃には、年々二百萬のランプが新に支那人に用ひられる様になつたとのことである。この時にあたり、ローヤルダッチの支那市場に對する進撃は大となつた。ス社は、アメリカ本國に於ける市場は保護關稅によつて、絶對に敵の侵入不可能なため、本國に於ける利益を競争に注ぎ、支那市場に於ては生産費以下で賣り出した。一九〇七、八年の頃、極東市場に於ては歐洲市場の半額であつた。而も兩社の競争はひとり極東方面のみに限らず、全世界に於て行はれるやうになつたので、兩者の蒙つた損害は實に莫大なものであつた。が、ローヤルダッチは

イギリス、オランダ兩政府の援助、アメリカ國內に於ける反トラスト政策、ロ社々長デターヂングの怪腕によつて、支那市場に於ては一九一二年ロ社の勝利をもつて休戦を行つた。然し乍らこの支那に於ける石油戦は、世界石油戦の前衛戦にすぎず、ス社は直ちに敵の本據たるジャヴァ島に於ける石油會社を手に入れたが、同地方に於けるロ社の勢力牢固たるものあり、ロ社却つて逆襲戦に出で、多數のタンク船をもつて生産費の安い露油を米國に送り、ス社の本國市場を脅かした。それより先、ロ社はロスチャイルド家と妥協し、その經營する露油の供給を仰ぐこととして市場の確保の計畫をたてゝゐたのである。

ロ社は更に敵地深く侵入し、カリフォルニアに大油田を買収し、もつて一方には自社石油たるボルネオ石油の不良を補ひ他方にはス社の供給資源を制限し、つゞいてオクラホマに大油田を獲、更に、テクサス、ニューメキシコ、コロラド、ユター、アリゾナ、モンタナ、ダコタ、ネブアダの諸州に油田を得、かくて一九一五年には米國石油産額の九分の一まで侵入することが出来た。又桑港附近、イーストセントルイス、ニューオールリーンスの如き交通上の要地に大精油所を設け、かくてロ社産油の三分の一は米國油田から出ることゝなつた。

ロ社の世界市場征服は更に遠大なものがあつた、即ち全世界に同社のタンク網を張ること、

全世界の重要な油田地方に對しては必ずその利權に参加すること等の政策をもつてした。

今日、商業上軍事上重要な世界航路の起點、中繼點は悉くロ社のタンク又は精油所があり、石油を燃料とする軍艦商船はロ社の石油を仰がざれば航行できぬ状態である。従つて又おのづから日に日に開拓されゆく國際航空交通の運命の鍵をも握つてゐる譯である。

一九一八年、ロ社はメキシコのタンピコ附近の豊富なる油田を得るに及んで、更に國際市場に一大進出をした。即ち、**タンピコ油田**はメキシコ産油の二割を産出する大油田である故、ロ社はその獲得によつて産油額の五割を増した。且つ百萬トンをこゆる自社の優勢なるタンク船隊をもつて、タンピコ油田の海に近く而もパナマ運河を距つる海路三五〇浬の近距離の絶好の地理的位置にあるのを利用して、パナマ運河の統制の上に大なる便宜を得たのであつた。運河の兩入口に大タンクを設け、パナマ共和國內にも油田を得、運河を自社の勢力のもとにおいた。更に、南米に於ける最大油田を有するヴェネズエラに一萬五千方哩に互る利權を得、近海のオランダ領キラソー島に大なる精油所及びタンクを設けた。又大西洋航路の重要な中繼點たるケープ・ヴェルデ島にも大タンクを有してゐる。

かくて又、ルーマニヤに於てもス社に對して三倍の優位を勝ち得、中歐諸國の市場のみなら

ず、フランス、スペインの西歐、スウェーデンの北歐にもロ社の製品が優勢を示してゐる。エジプトに於て英埃油田會社を支配し、その生産供給を獨占し、スエズ運河にも大製油所を設けてパナマと同様重要な國際交通路の衝を抑へてゐる。インドもベルシャにもその手がのびてゐる。

ロ、ス兩社の石油戰、換言すれば英米經濟戰はメソポタミヤ及びコーカサスに於て最も深刻を極めた。メキシコ油田に對するこの英米二大石油トラスト間の鬭争は、過去二十年間メキシコ政局の不安即ち大統領の交迭相つぎ、叛亂また踵を接して起る基因をなしてゐるが如く、最近十年近東方面の政治不安は實にメソポタミヤの北モスール附近の油田及びバクー油田（バクー油田は裏海に突出するアプシエロンと呼ぶ面積僅か二十五平方浬の一小半島の地より産出するのであるが、一つの油田としては實に世界第一の油田といふべきものであらう。）がその焦點となつてゐるのである。

モスール油田 については、はじめ獨英の競争であつたが、世界大戰と共に、英國は油田地占領の目的をもつて遙に遠征軍を派遣し、一九一八年メソポタミヤ全部を占領し、軍事上の必要といふ名目で、石油を採掘し、石油導管及び精油所を設けた。

のち、英國は一九二〇年四月二十五日のサンレモに於ける聯合國石油協約によつて、メソポタミヤ油田の權利を承認されたが、米國が英國の油田獨占をもつて、委任統治の原則に反するものとして抗議に會ひ、米國系資本の參加を求めて妥協した。

ロカルノ條約（一九二六年）では、國際聯盟の決定通り、二十五年後に人民投票をする條件で、モスール係争地全部を英國の委任統治するイラク國に譲つた。而も、今日に至るも尙、モスール油田を中心としての紛争は絶えず、そのために近東政局の風雲たゞならぬものがある。

バクーの油田に燃ゆる常住不斷の火こそザラツストラの拜火教の源をなすものなりといふ。この炎こそ拜火教の本山であつた。この地方の國名たるアゼルバイジャンの地名も「永劫の火の國」の意であるといふ。ロシア領の時も「ロマノフ家の眞珠」と貴ばれて皇室財産の一つであつた。而して、バクー石油業開始者はかのノーベル賞金の出資者たるスウェーデン人ノーベルであつた。この開發は殆んど外國の資本をもつてなされ、その投資の割合は英國 七一・五、佛 二〇・二、獨五・四、白二・九であつた。この英國の投資といふのは前述のロスチャイルド家の投資で、即ちローヤル・ダッチの系統に屬するものであつた。

ロシア革命の混亂に乗じて、この油田の乗取りが行はれた。即ち一九一七年十二月トルコ兵

の侵入にあひ、翌年五月この地方はジョージャ、アゼルバイジャン、アルメニヤの獨立あり、ジョージャはドイツの援を乞ひ、アゼルバイジャンは英軍の援助を乞ふたが、ドイツは石油の缺乏に困却してゐた際として、同年六月ジョージャに獨軍が來つた。八月ブレストリトウスクの獨露平和條約にも、ドイツにバクー石油の少くとも四分の一を供給することを約束せしめた。世界大戰の終了後、英軍はベルシヤから巡洋艦の保護の下に、バクーに來り、コーカサスを占領したが、これも戦前投資した利権を保護せんがためであつた。軍事委員會の決議によつて一年半の後、撤兵したが、そのうちカウカサスはデニキンの白衛軍、ウランゲルの反革命軍の荒すところとなつたが一九二〇年四月より現在のソヴェットロシアの治下に立つことになつた。而して各國は石油利権の好餌に操られてゐる有様である。

以上の走馬燈の如き歴史の記事は、石油爭奪戦を物語るもので、世界に於ける重要油田をめぐつて、如何に政局がめまぐるしく轉回するかを知ることが出来るのである。

以上は世界石油戦に於ける二大巨人たるロ社ス社を中心とした英米兩國の石油戦について述べたのであるが、各國いづれとして「石油問題」に腐心せざるはない。

フランスは英米の如く有力な會社をもつて誇り得ないが、それはフランスの石油戦に参加し

たのは歴史淺く、大戰後以來のことであるからである。

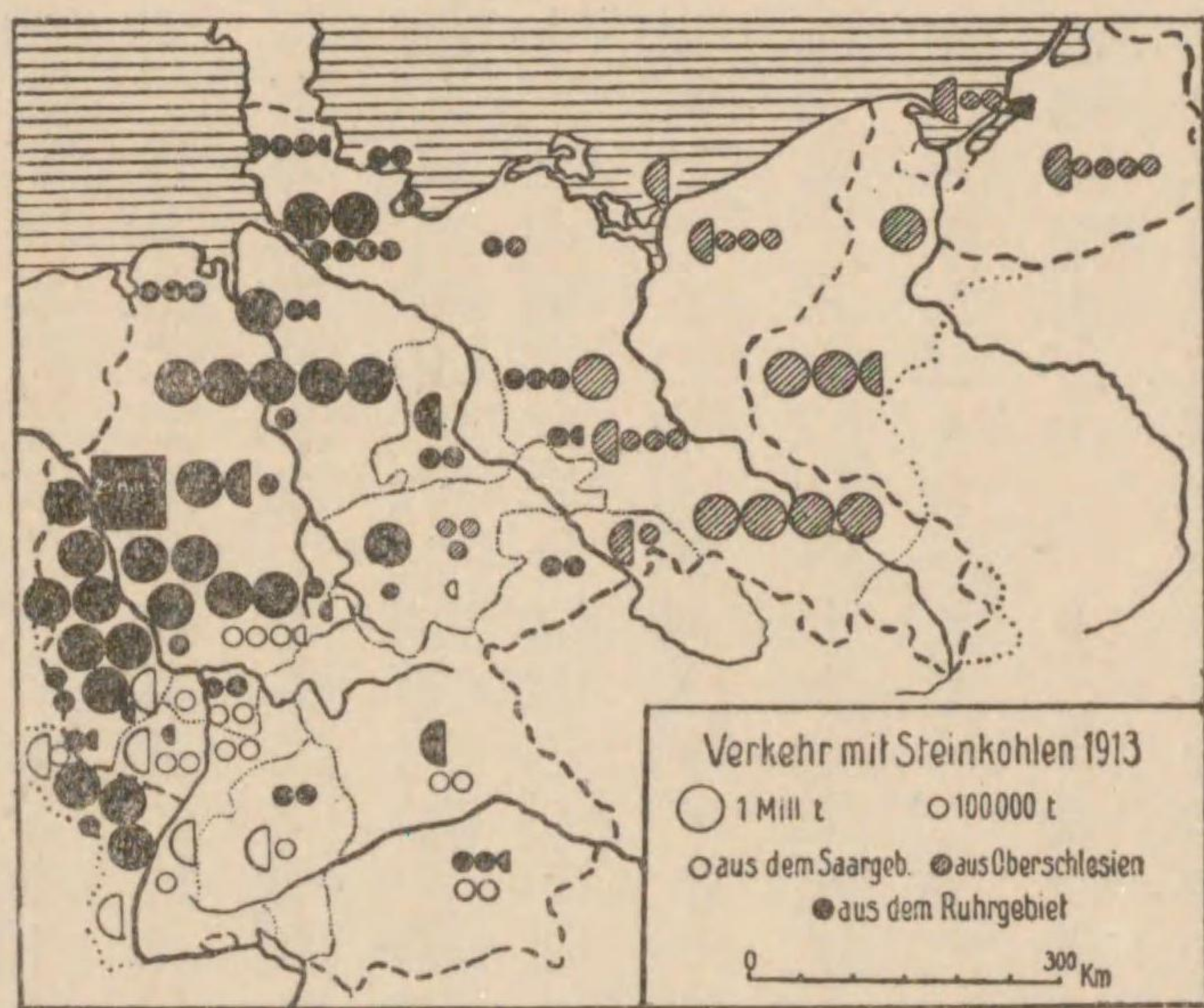
フランスは、英國に對する關係上、全力をつくして米國をして英國に均衡せしむるやうに努力してゐると共に、ガリシヤ油田を獨占せんとしてゐる。又、ルーマニヤ油田にも進出せんとし、政府又これを極力援助してゐる。モスール石油には二五%の持株を有してゐる。

日本は秋田越後に狹少なる油田を有するに過ぎない。その産額（一九二六年）の如きも世界總産額の千分の一六に過ぎない。合衆國の百分の七〇・六に比し思ひ半にすぎることがある。而も、その需要は年々加はるのみである故、新しき油田を得べく努力せざるを得ないのである。而北カラフトの油田利権獲得のための努力（こゝにも米國が割り込まうとした）はこれを裏書きしてゐる。北カラフト油田は海岸に存在し、運輸の便に富むもその資源は恐らく將來日本の需要を充たすに足らないだらう。依つて滿洲撫順炭坑の頁岩よりの採油を計畫してゐる。尙臺灣には處女油田があり、その開發に着手せんとしてゐる。

日本海軍は毎年ボルネオのタラカンより原油を仰いでゐる。

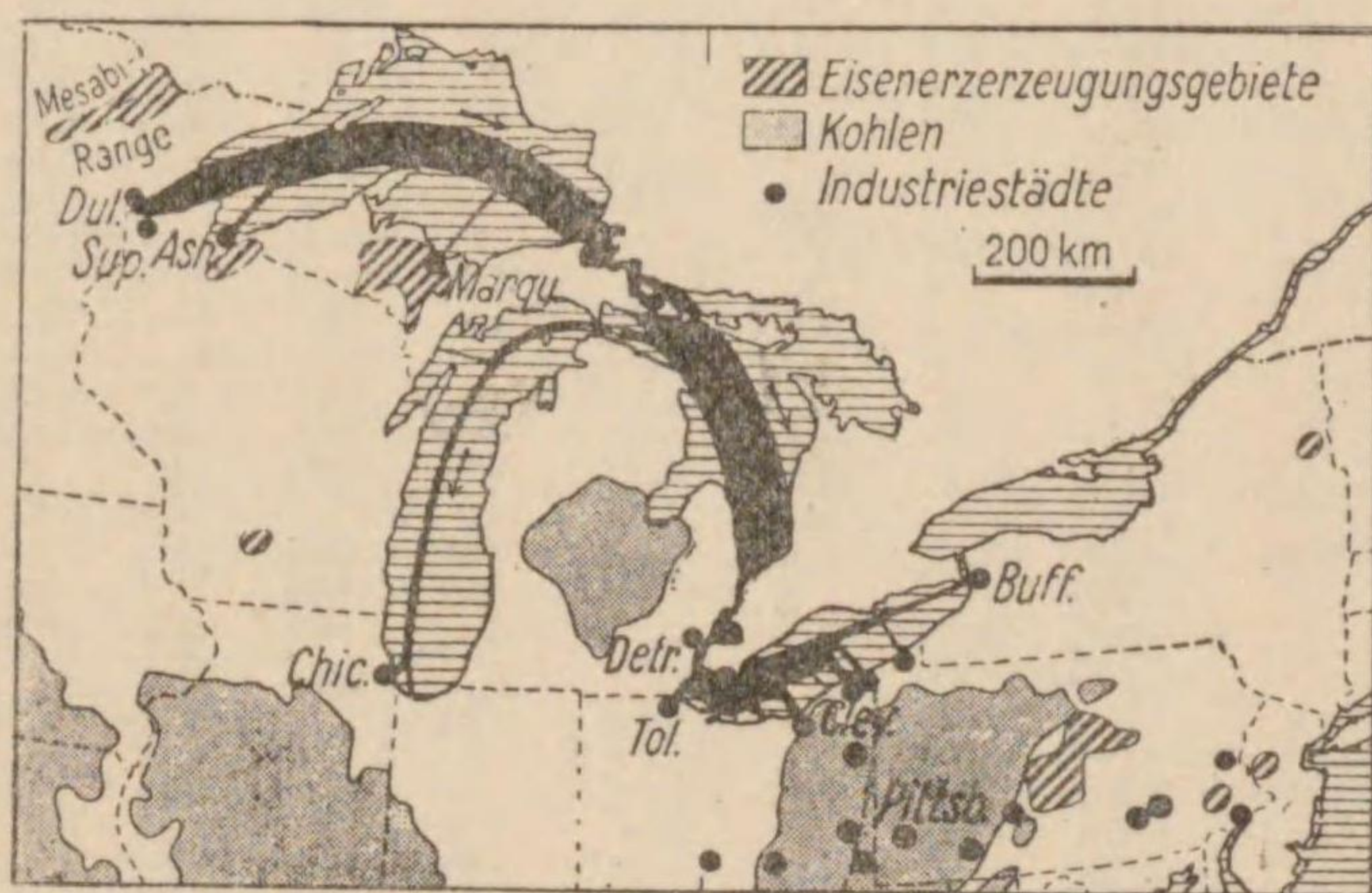
石 炭

石炭は近代文明の推進力であつた。動力としての指導的位置は今日石油にゆづらざるを得なくなつたが今日尙重要なものであることは言ふまでもない。石油の消費額は石炭の二五%たる



122. 獨逸に於ける石炭運輸の分野 (1913年) (Scheu)

白はザール地方からのもの、黒はルール地方、斜線は上シレツヤからのもの



123. 炭田及鐵鑛分布と五大湖運輸送及工業都市の位置 (Lütgens)

にすぎないのであるから、従つて今日と雖も従前と同じく石炭を有する國は經濟的に富國であり政治的に強國である。

石炭の供給國は英米獨で此三國は全世界の八十一%を占めてゐる。世界戦争前までは英國は全世界の他のすべての産額の總額よりも遙かに多量の石炭を生産し且つ輸出して居り、世界石炭市場に於て覇を握りその炭價を支配してゐたが今日では生産技術の退歩、生産費の高騰に比してその地位を米國にゆづらなければならなくなつた(イギリス坑夫が一週間で採掘するのを米國坑夫は一日で採掘する)。そして從來ヨーロッパの燃料供給は英獨兩國の獨占であつたが今日ではこの市場圏内にもその低廉な炭價をもつて米國の石炭が侵入しイギリスの經濟を脅威せしめてゐる。

ドイツは戦後その豊富なるザールと上シレツヤとの炭田を奪はれて從來の地位を失つた。よつて今日世界の石炭市場の中心は米國にある。

米國石炭の産地はミシシッピー河を挟んでその東西に横たはつてゐる。その重心はペンシルヴァニア州、ミシガン湖とミシシッピー河との中間、西方中央盆地の三つであつてその外にも小炭田が廣く分布してゐる。

太平洋沿岸には海岸近くに炭田が尠ない關係上我が九州の石炭は極東の海運界に於ては重要な位置を占めて居り、シンガポール邊まで活躍して、南阿のナタル炭、濠洲炭を壓してゐる。

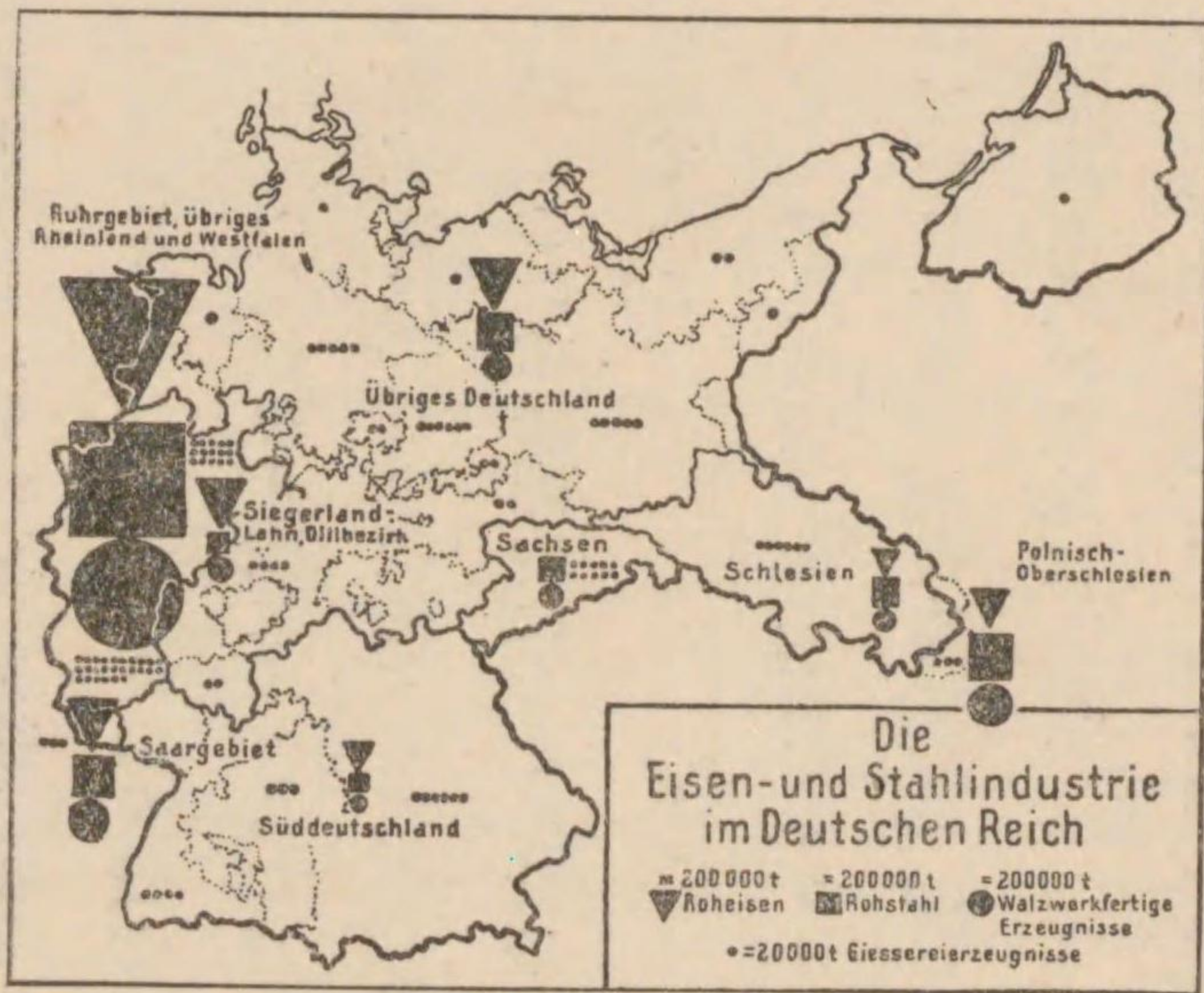
鐵及び鋼

現在採掘せられてゐる鐵鋼の産地の中心はヨーロッパと米國とである。ヨーロッパではフラン

ス、イギリス、ドイツで、これらは自國で産すると共に製鐵もするがそれらの國をめぐるスペイン、スウェーデン、ルクセンブルグは鐵鑛供給地である。佛獨境界地方の鐵鑛は兩國國境争奪の目的となつた。この國境地域から佛獨ともにその全産出の八〇%を出した。今日フランスがこの地方を占むるに至つたのでフランスが歐洲第一の鐵鑛の産地である。

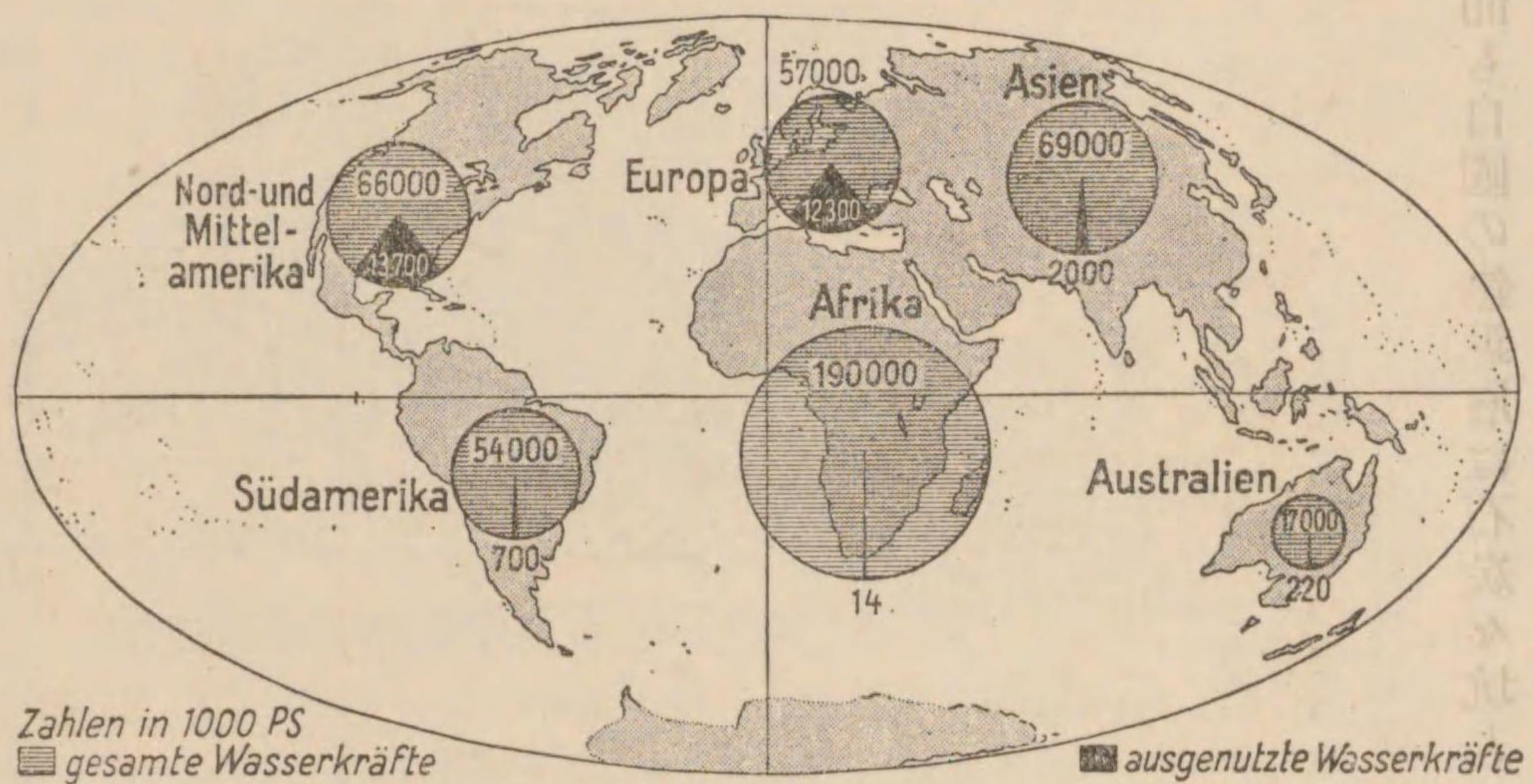
イギリスはその海を隔て、直ちにスウェーデン及スペインより鐵の鑛石を仰ぐことができる。

124. 獨逸の鐵鋼産業分布圖(1921年)(Schen)



ルール、ザール、上シレシヤがいかに佛蘭西、波蘭の目標であつたかはその價値に重要性によつて知られる

而も自國の鐵鑛層は石炭々坑と一致して居る點は米國と同様である。米國は鐵鑛の産出に於て



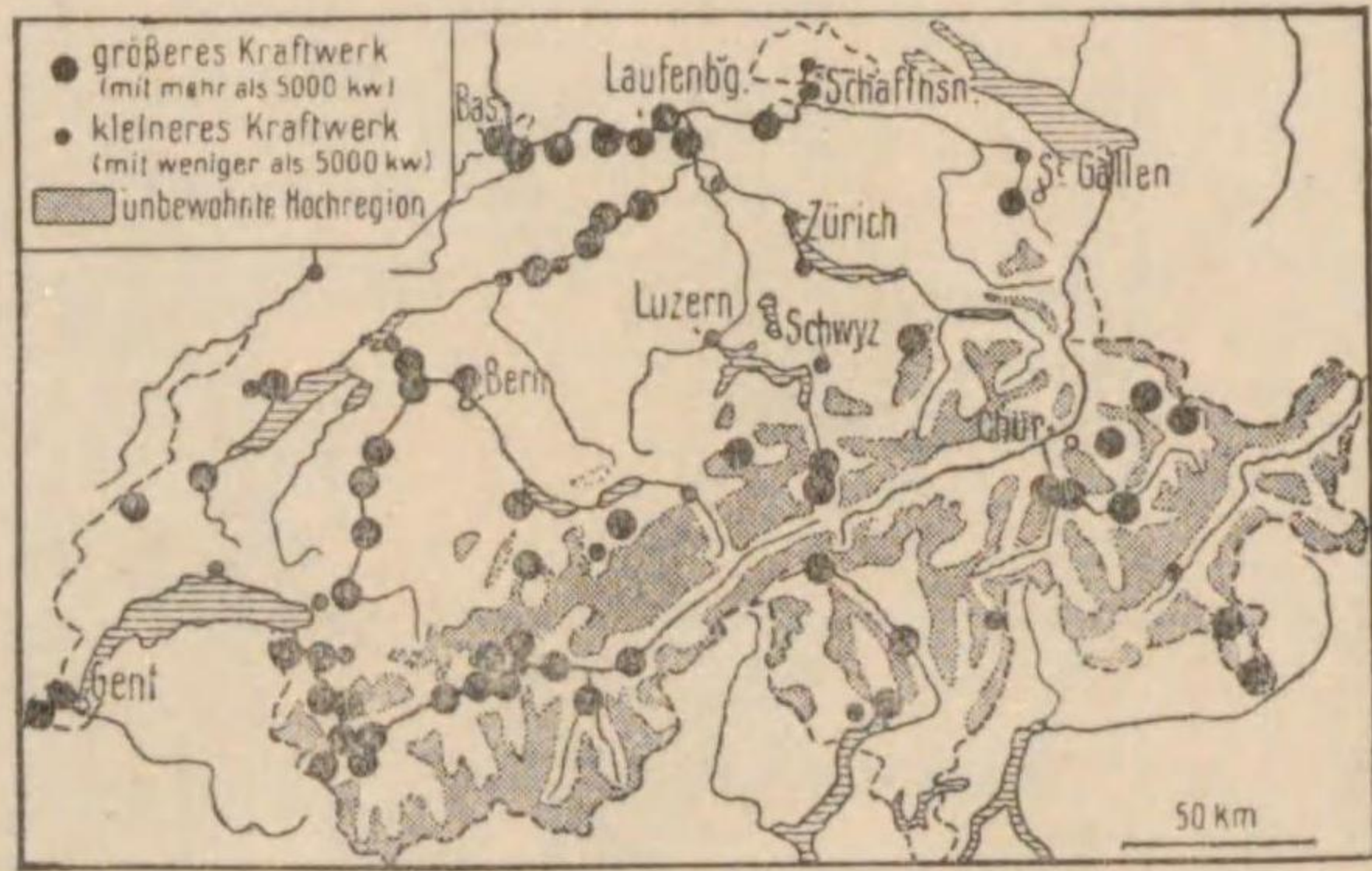
125. 世界の水力分布 (Lütgens)

黒の部分は利用せられてゐる部分 他は未だ利用せられざる部分

世界第一で世界産出の半以上である。その産地は五大湖ことにスペリオル湖の南で、米國の心臟ともいふべき地點と一致して居る。ことに五大湖を利用しての交通の至便であることは一層鐵工業に有利な條件となつてゐる。ことに鐵鑛より銑鐵及び鋼鐵を製するには石炭が必要であるため、鐵鑛と石炭と共に産する英米は製鋼の方にも世界市場の中心である。

水 力

人類に必要な生活資料は原料に手を加へて初めて利用され得るやうになる。その動力は石炭による蒸氣機關又は火力電氣であり、又最近は石油によるディゼルエンジンである。しかしタービンの發明(一八二四年)と共に水力の利用も大となつた。



126. 瑞西の水力発電所分布(Lütgens)

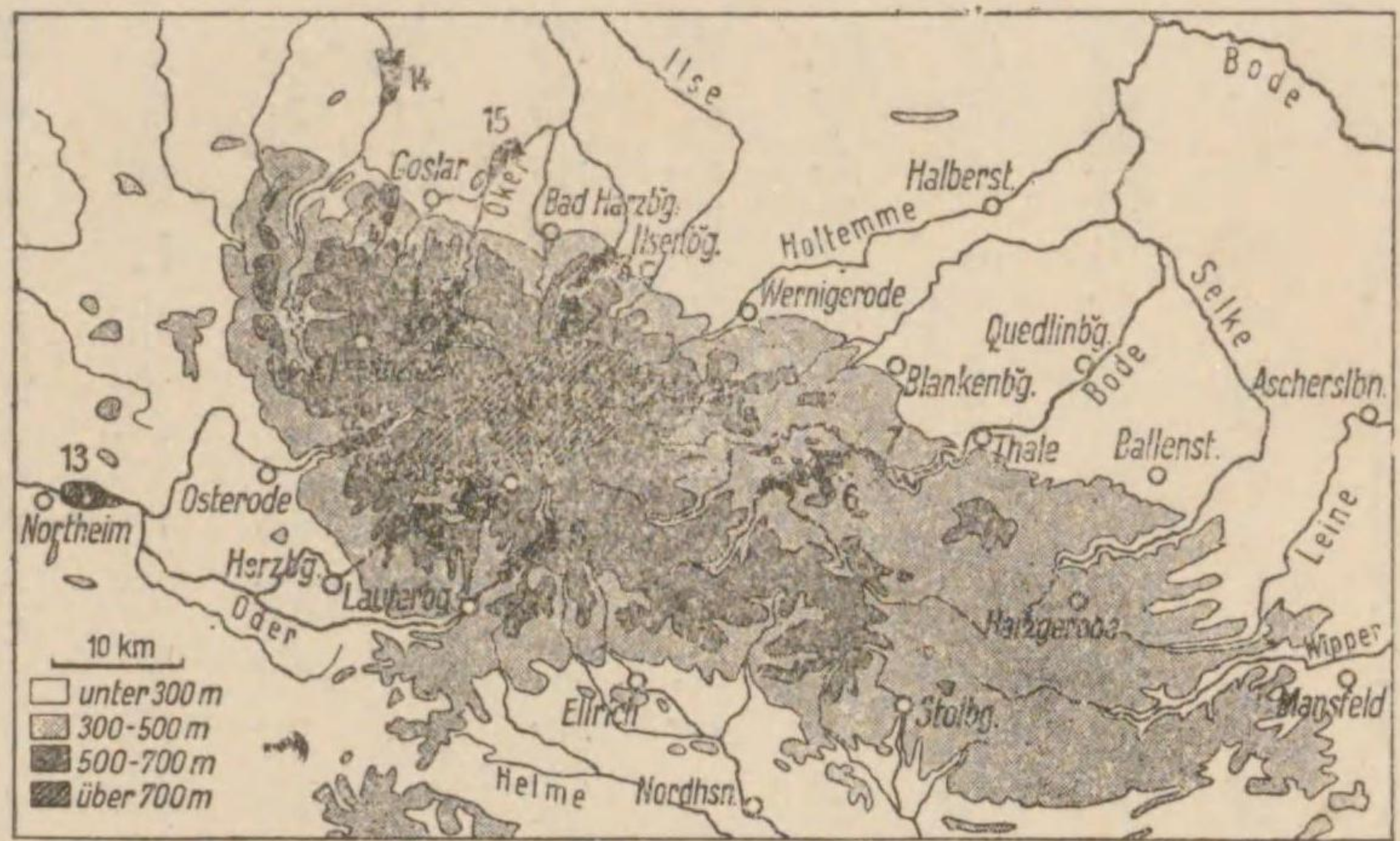
水力は今日「白炭」と稱せられ重要な位置を占めてゐる。ことに石炭を缺く國々にとつてはその工業の基礎となつてゐる。スウェーデン、イタリア、日本などは最もよく水力を利用してゐる國である。又ドイツは、後背地の豊富なる水源をもつて或ひは地形を利用して堰止池をつくり水力をもつて國內電化のために資して居り、米國東部の工業の基礎はアパラキヤ山脈の前面一帯の瀑布線を利用したことにあつた。この地方はこの水力を利用して早くから家内工業が勃興したのであつたが、今日では全米到るところの河川の水力が発電に利用されてゐる。

註 スウェーデンの森林は水源の涵養地となつてゐる。又この國には水の流が緩で量が多い。又瀑布線がある。これらは皆水力に利用され、河口には壯大な鋸場やパルプ又は製紙工場が散布してゐる。水力電氣はゴタ、モタラ、ダル、ヴェステルダル、アンゲルマン、レール川に沿つて発電所が散在し、固有の水力発電所があつて、鐵道電化をやつてゐる位である。その利用水力は六百萬馬力と稱せられてゐる。

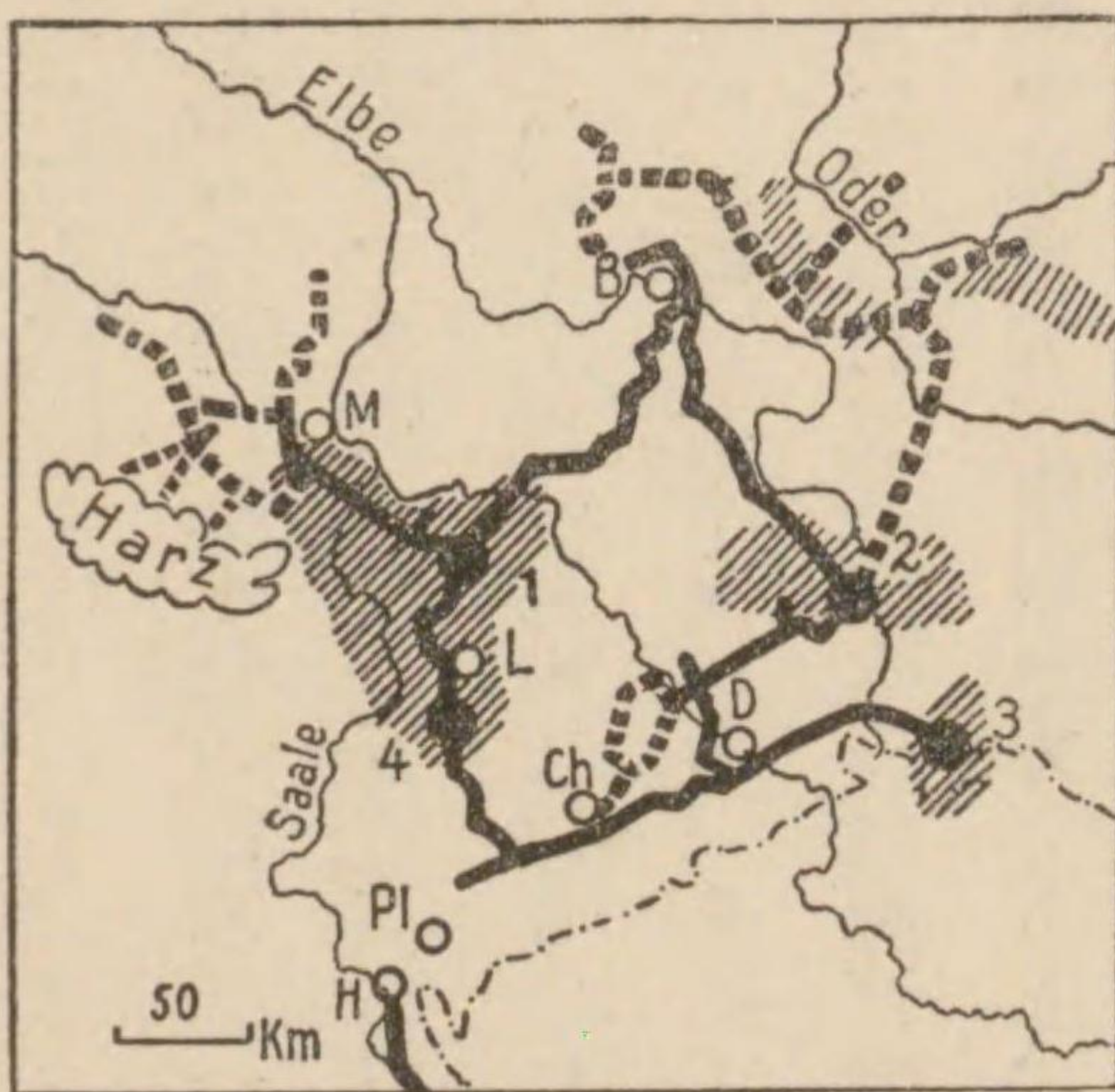
その送電も長距離になされアルプスの山脈を洗ふ谿谷の水は直ちにこの北海の都會の動力と

なり照明となつてゐる。

吾國でも今日最大送電距離は二百三十哩をこえてゐる。電壓の遞昇につれて輸送距離も増大



127. ハルツの谷を利用した堰止湖(Lütgens) この水は水力、飲料、運河網に利用される



128. 中央獨逸に於ける褐炭産地(斜線)と長距離送電(Scheu)

し日本では十五萬四千ヴォルトを最大としてゐるが米國では二十二萬ヴォルトになつてゐる。イタリアの如きも北部アルプスの谿谷で發電したものを全イタリアに送電してゐる。

水力の發電は實に産業の工業化の基礎であつて、新興ソヴェットロシアの如きもその産業の

工業化のためにはまづ國內に電化網を設置しなければならないといふ方針によつてその工業を着々進行してゐるさうである。

吾國は水力利用の順序から言へば、米國、カナダ、ノールウェー、スウイス、日本の五位にあるけれどもその狭少な面積からみたならばノールウェー、スウイスと共に世界に於て有數の水力利用國で、その經濟的に利用し得る水力は平水量の計算で一千三百二十萬二千七百七十六馬力で、キロワットに換算し約一千萬で、米國の四千五百萬馬力に比し四分の一ではあるが、實に世界無比ともいふべきである。その中工事の完成したものは三百六十萬馬力、既に水力の使用を許可せられてまだ發電せぬものが四百七十萬馬力、全然工事に着手せぬものが四百九十萬馬力あつて、僅に三七%にすぎない。而してその水力包藏河川は信濃川を第一とし、木曾川、阿賀野川、利根川の順でその分布が中部地方、關東地方であり、吾國の工業の中心に近くこれを利用し得ることは、實に重要なことである。又かく主要水力の地點が大都市に接近してゐることは、一方にはこれらの大都市の産業の工業化に資したと共に又日本の水力が異常に發達した原因である。(終)

索引

アールマン	六	一三	アレキサンダー・ズーバン	一四
アイヌ聚落	一五	一三	アレキサンダー・フォン・フンボルト	一四
アイヌの適應性	一五	一三	アントニヌス長城	一〇
アクタ	一三	一三	アンデス山脈横断鐵道	一〇
アクトボリス	一三	一三	暗蔭面	一〇
阿久津	一三	一三	暗黒大陸	一〇
アジアの形式	一三	一三	安全な條件	一〇
アジアの脈搏	一三	一三		
アジア大陸の交通	一三	一三	い	
アジアの鐵道密度	一三	一三	イオニヤ學派	一〇
アジアの人口集團の限界	一三	一三	イギリス人の植民市	一〇
アジアの人口集團の文化	一三	一三	イスパニヤ的型式	一〇
アステック帝國の文化	一三	一三	イストウエーネ人	一〇
アットワット	一三	一三	イスラエルの十族	一〇
亞細帯	一三	一三	泉に伴ふ神の口碑	一〇
アパラシアン諸部族	一三	一三	依存經濟	一〇
アビシニヤの詠	一三	一三	依存經濟の世界	一〇
アフリカの鐵道密度	一三	一三	市場村	一〇
アフリカ大陸の交通	一三	一三	一部の民族遷移	一〇
アマゾン流域の土着民族	一三	一三	一般比較地理學	一〇
			夷狄の避難地	一〇

移動の方向	二五
移動の遺跡	二三
移動牧畜制度	二九
移民群	三〇
イラニヤ人の農業の傳説	六
入り	一八〇
入野	一四
イリリヤ人	一八
イロコイ族	二七
インカ族	二七
インカ族の文明	二五
インカ帝國の文明	九
イングウェーネン人	一八
インドの人口	七
インド棉	一〇〇
インドへの道	一五
インディアンに移住	六
インディアン・エキスプレス	一五
インディアン種族の言語數	一三
う	
ウイルヘルム・フォルツ	一五
ウエーゲツク	三八
ウハノ	二八
上杉氏の城市	三〇〇
ウミスズメ	五
海への出口	三四
運河の網目的工事	三
ヴェント人	三八
え	
英國の聚落	一八
英印航空路	一〇
營養植物	五
エーリング	一八
エスキモー居住地域	四
エスキモーの夏の聚落	一五
エチプト文明の支柱	一四
エチプトの人口	三
エトラスカ族の商人	一〇
エフェサス	三三
エマヌエル・ド・マルトンヌ	六
エラトステネス	二
エリー族	二七
エリス群島	二二
エリゼ・レタリユ	八
エレン・チャーチル・センブル	一六
圓形的増界線	三一
沿海民族	一六
沿海國	一〇
圓塚族	二四
エンゲルマン	一五
エンクロジニア	一四
お	
オアシス諸國	一六
大字の數と飛地の數	一七
干領殖民地	三〇
英國人口の高さによる分布	一五
大ボケ	一六
オーベルハンマー	六

オーギルヴィ	六
オーブンフィールド	一七
大阪	三六
大地主の制	一四
甌脱	一八
オクシエンタール・リヴィエラ	九
オスカール・ベッセル	五
落人の村	一八
親村	一四
落人の土著	一四
オットー・マウル	一四
オプスト	三
オリヅ	九
オリエント・エキスプレス	一五
オリエンタル・リヴィエラ	九
オリヴァー・ペーカー	六
オルムスビー	六
隠出	一四
オンドル	一八
溫帯地方の穀倉	一五
か	
カール・リッター	六
カールスルーエ	一三
階段耕作	七
階段状の田	一四
階段農業	九
階段耕作地	九
海島棉	一〇〇
海洋的民族	一〇七
海洋増界	三四
海洋門戸獲得の歴史	三五
海水侵入の海岸	一〇七
海中より恢復した土地	一〇七
開墾	一四
開墾者の名	一四
開發企畫者の努力	一七
開墾地の割地	一四
カオンテイ	一五
家屋と聚落	一四
書かれたる歴史	一五
華僑	一一
夏季幕營	元
垣内式聚落	一
火口港	三三
河口の港	三〇
河口兩岸の港	三〇
柁	一四
圍地	一四
河口征服の鍵	一六
火住民	一六
河條國家	一七
果樹農業	一七
河成單元	一七
河船航路	一七
夏村	一五
カッパ	一七
カッパ	一七
火田の所在	一七
河道の變遷	一六
河道と交通路	一六
カナディアン・パシフィック	一四
カナダの毛皮貿易地點	一四

カヒル人の進出	二三	關東平野の聚落	一五	局部的鐵道	六五
貝塚の分布	一〇八	關東の都市	一九	氣候と人文現象	七
カブリヅイ模狀地	三三	環村	二一	氣候順應の力	七
カフン	四〇	環礁港	二〇	季節風	二〇
カマチ	二七	寒地産業	六	季節的移動住地	三
カナダの水上交通	二六	官營的都市計畫	二四	季節的移動住地	三
カヤーク	一五	崖錐	二五	境界の種類	四
棚	一四	街路の屈曲	一四	北支那に於ける農村	一九
カルセージ	三〇	核心	三〇	北アメリカの狩獵民族	二〇
カルスト地方の聚落	一五	外港	二七	木戸	二〇
カルデヤの人口	四	ガンギ	一〇	キヤッスル	一四
環村	一四	街村	一三	キヤンベラ	一四
河内	一七	街村の細かい分類	一三	舊海岸線	一〇
河の合流點	一四〇	街村の背景	一七	舊港の生命	二六
緩衝國	一九	ガイストラ	一六	舊藩の拓地政策	二六
圓狀村落	一五	崖の上の村	一六	舊石器時代	二六
咸陽	二九	き	一〇	丘陵上の聚落	二六
漢人の蒙地開墾	七	飢饉の歴史	一〇	休閑地	二六
漢人の流民	七	幾何的都市	四	舊アルマン民族發祥地	二六
漢人の蒙地占耕	七	近代地理學の父	四	境界の發生	一五
寒帯地の利用	四				
漢代の孔道	三				

境界發生の過程	元六	ギリシャの古都市	二〇	グラードマン	一七〇
境界の模範	三〇	ギリシャ人の植民地	二〇	軍事的植民地	一七〇
境界の機能	三三	く		け	三九
境界の長さ	元九	クランジュ	一九	經緯線の境界線	三三
境界の初期の形態	三二	空閑	一四	經營植民地	三九
境界の要素	三三	草代	一四	經濟都市	三九
境界線發生の要素	三三	草分け者	一四	ケッペンの氣候區	三九
境界の觀念の發生	三三	クテシフォン	一四	ケルト民族の影響	三九
橋頭の町	一四〇	クックスファーヘン	三三	ケルト語の島嶼	三九
橋畔の村	一四〇	國の領地	三三	檢役港	三九
居住區域の境界	三三	クマ	二六	ゲオエコノミー	二八
居住地の限界	三三	組合式	二六	ゲオルグ・ブッシュン	二八
峽江港	二〇	倉代	二四	ゲジラ灌溉地	二八
共有の原野	二四	苦力	二二	ゲルマン民族獨特の居住形態	二八
共同的耕作法	二七	クリストフ・アレイン	二二	原始農業	二八
巨船時代	二七	クレム	二四	原始的農業	二八
近代の産業の動力	二六	クレムル	二四	原始人の分布	二八
近代文明の推進力	二六	クレプス	二五	原始時代の戦争	二七
近代的大都市の發達	二六	桑代	二四	原始時代の記録	二七
漁撈民族	二〇	グラード	二〇	原始の傾向	二七
漁業植民地	三九				

言語分布	三八	耕作地の繼續的輪作	一五	黃土高原	三
言語境界	三三	耕作區劃	一七	黃土價值	三
言語分布境界	三三	港市	二七	荒廢地帶	九
言語的種族分布圖	二五	向日面	一九	弘法の水	九
現代の民族移動	六	恒常的居住の境界線	三	荒野	一四
原生的な植物	三三	後背地	二七	高野	一四
		甲地の田代	一四	幸谷	一四
		耕地の興廢	一五	コレン	一四
		耕地に關する制度	一六	湖岸線の變遷	一〇
		耕地の別	一八	國際港市	一〇
		耕作法の程度	二〇	國際河川	一〇
		高地地帶	二〇	國際鐵道	一〇
		高地の村	二一	國際急行列車	一〇
		高地の夏小屋	二一	國際市場獨占	一〇
		耕地の割替	二二	國際商品	一〇
		交通線外にある聚落	二二	國民的成長	一一
		交通路と聚落	二二	黒人の勞力	一一
		交通機關による移動	二二	國內電化	一一
		交通の機關	二二	國內人口移動	一一
		公田	二二	國防線	一一
		黃土盆地	二二	穀類の原生地	一一
				孤立住宅	一一

子代	二四	小麥の世界市場	三三	ゴム	三三
コスモス(宇宙)	五	小麥輸出國	三三	ゴムの故郷	三三
古代ペルー	二七	小村(ハムレット)	三三	ゴムの生産制限	三三
古代四國の聚落	二七	米	三三	ゴムの支配	三三
古代の住民の平均密度	二九	固有植物の風土馴化	三三	ゴロツト	三三
古代の地中海型の集約的農業	二九	孤立家屋	三三		
古代都市の人口	二九	渡廊(コリドール)	三三		
古代五國の初期の植民	二九	コルビイ	三三		
國家の背面	三〇	コンカ・デオウ	三三		
國家の胎子的形態	三〇	コンゴ河の國	三三		
國境の移動	三〇	ゴア	三三		
國境都市	三〇	郷	三三		
國境の整理	三〇	五街道中	三三		
國境貿易の町	三〇	五大湖の利用	三三		
交通地理	三〇	濠洲の鐵道密度	三三		
小百姓の村	三〇	ゴート人	三三		
小ボケ	三〇	興野(ゴウヤ)	三三		
小麥	三〇	五箇	三三		
小麥摘取期	三〇	五箇山	三三		
小麥播種期	三〇	基盤割	三三		
小麥の補助的地位	三〇	基盤割の都市	三三		
				最小の境界線	三三
				最初文化の中心	三三
				栽培植民地	三三
				栽培植物の種別	三三
				栽培ゴムの増加	三三
				再分割の制度	三三
				サウアー	三三
				サヴァナ	三三
				サウス・エクスプレス	三三
				堺港	三三
				坂本	三三
				作州津山藩	三三
				作物の播種	三三
				作人の部落	三三

戦争による移動	二六	タリム盆地の氣候	九	タンビコ油田	一六一
泉地の中の都邑	二五	タリム盆地	一〇	タンク綱	一六〇
セント・パウグステイン	二四	タービンの發明	一〇	タラ	一五七
センナール堰門	二四	對抗的獨占	一〇	タオンシップ	一五七
泉府	二五	陸商の交通	一〇	拓殖の動脈	一五三
ゼルヒ	二五	陸商の交通	一〇	澤地村落	一四四
前史時代の人口の中心	二六	除商路	一〇	高き市	一四三
前港	二七	堆石の岡	一〇	手子	一四一
僧院の都市	二七	大西洋に於ける汽船航路	一〇	田結	一四一
莊園の小區劃	二七	太平洋に於ける風向と帆船航路	一〇	田子	一四一
莊園の時代	二七	大陸の先端岬の港	一〇	田代	一四一
惣開	二七	大陸貿易	一〇	田氏	一四一
綜劃	二七			タスマニヤの人口減じ	一四一
草原氣候	二七			タテ	一四一
綜合的認識	二七			多島海内の港	一四一
惣受	二七			タナ湖の水利權	一四一
惣受新田	二七			タナ湖	一四一
外新田	二七			結	一四一
莊宅	二七			田屋	一四一
				タラ	一四一
				タンネンブルグの戰	一四一
				單地經營	一四一

そ

た

大連河	二〇	地圖方法	一七	中央アジアの人口	二九
大家族の家	二〇	地球上の可能人口	一七	中國の花	二九
第三路	二〇	地理學の發生	一七	中立地帯	二九
大沼澤地の排水	二〇	地經濟學	一七	中欧の平野	二九
大小名の城下町	二〇	テゾルム	一七	中央的位置	二九
大資本家の總讀員	二〇	地子地	一七	長距離輸送	二九
大寺の所在地	二〇	地誌的地理學	一七	長安の人口	二九
大莊園の細分	二〇	地中海式氣候	一七	直營農場の農僕	二九
大地域	二〇	地中海方面の人口	一七	直轄社領と寺領	二九
大都市の膨脹	二〇	地中海の形式	一七	直轄植民地	二九
ダイネツリ	二〇	地方特有の形態	一七	朝鮮聚落の成立	二九
大ベルリン	二〇	地表の最大可能人口	一七	地理學の二元的系統	二九
大ロシア人の村の形	二〇	地表の可能的人口密度	一七	地理學の原語	二九
ダウダ・ヒューム	二〇	地方聚落の凝集	一七	地理學の原語	二九
惰性の法則	二〇	地方の都會の種子	一七	地理學の進歩過程	二九
田園都市風の都會	二〇	テムガットの廢市	一七	地理學の磁石	二九
		テムガッド	一七	地理的環境と食料	二九
		中世的社寺	一七	地理的位置の重要	二九
		中心圓式の市街	一七	地理的環境への適應	二九
		中部歐羅巴の形式	一七	地子	二九
		中央アジアの民族の性質	一七		
		中繼地	一七		

(別府製本)

昭和五年五月十二日印刷
昭和五年五月十五日發行

人文地理學概要
定價參圓五拾錢

版權



著者 佐々木彦一郎

發行者 橋本福松
東京市神田區駿河臺西紅梅町拾壹番地

印刷者 白井赫太郎
東京市神田區錦町三丁目拾七番地

精興社印行

發兌

東京市神田區駿河臺
西紅梅町拾壹番地

古今書院

振替東京三五三四〇番

